

## 編集後記

山岡嘉彌氏が如学会会長を昨年退任致しました。アイデアマンであり、実行力を伴ったリーダーでした。新たな事業として「建築 100 人展」を発売し、年会費以外の貴重な財源となりました。毎年恒例の「弾丸ツアー」は国内(2泊3日)はもとより、海外(3泊5日)にも及び、普通では体験できない貴重な旅行でした。役員として20年余、会長として3期9年の永きに亘り如学会に尽くして頂きました。この誌面をお借りして深く感謝の意を申し上げます。

小林秀憲新会長の元、組織がスリムになり、若返りました。「建築 100 人展」は2年間のブランクはありましたが、浅井委員長をはじめ若手で浅草展・VR展として昨年12月蘇りました。「如学会 NEWS」も読者が何を读みたいかを元に新任の若手編集者が、新シリーズとして「研究室の先生」と「同窓生クロストーク」を企画し、まとめました。発刊を春秋年2回を年1回にし、メルマガとの連携も計ります。表紙も紙面も刷新しました。来年度は、卒業関連以外の学生の活動も伝えます。期待してください。 丹羽 譲治

発行：東京都市大学 建築学科 同窓会・如学会 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 発行日：2022年3月19日

## 各種事業の申込 問合せ

総務局長：伴 宣久  
E-mail:jogakkai.info@jogakkai.jp

## 制作

編集：※川端彩乃 ※松永咲子 ※中村芽久美  
鈴木浩 山口裕照 丹羽譲治 ※は新任  
デザイン：丹羽 譲治  
制作・印刷：株式会社 はやと企画  
掲載希望記事を募集しています。  
情報委員長：川端彩乃  
E-mail:jogakkai.info@jogakkai.jp

東京都市大学 建築学科 同窓会

# 如学会 NEWS

# 2022

# 如学会の活動

## Message

如学会 会長  
小林 秀憲  
1982 卒 松田平田設計



略歴  
1982 武蔵工業大学工学部建築学科（広瀬研究室）卒業  
1984 武蔵工業大学工学部建築学科大学院（広瀬研究室）卒業  
1984 松田平田坂本設計事務所（現 松田平田設計）入社  
2001 同社 特定建築設計部長  
2014 同社 執行役員  
2019 同社 取締役 設計統括

今年度より「如学会NEWS」の発行を1年に一回とし、3月にさせて頂くこととしました。今まで2回、春と秋の発行を続けてまいりましたが、新しい情報委員会メンバーと議論を重ね年1回の発行といたしました。その中で紙面での発行をやめて、今の時代に沿ったWeb配信による新しい形の「如学会NEWS」という意見もありました。しかし、物として皆さんのお手元に送らせていただき、形として残る物が重要ではないかとの考えにより、紙面での発行を継続することといたしました。年一回となるため内容の濃いものにしたと思いましたが、新しいメンバーでの発行であったため、苦勞をして今回新生第1号として制作いたしました。新しい「如学会NEWS」を読んでいただければ幸いです。

私が、山岡前会長より引継ぎ1年が過ぎようとしています。如学会の会員自体9,000名ほどですが、会費を納めていただいている方はその内の450名ほど、さらに執行部として活動して頂いているかたは30名ほどです。如学会の活動により多くの方に参加して頂けるような組織に行きたいと考えています。多くの方が実務で忙しく同窓会活動などできない、また同窓会活動の意義が感じられないという方が大半だと思います。そのような方を一人でも活動に参加して頂けるよう、一人一人の活動負担を低減し、有意義な内容にするべく活動を見直していきたいと考えています。

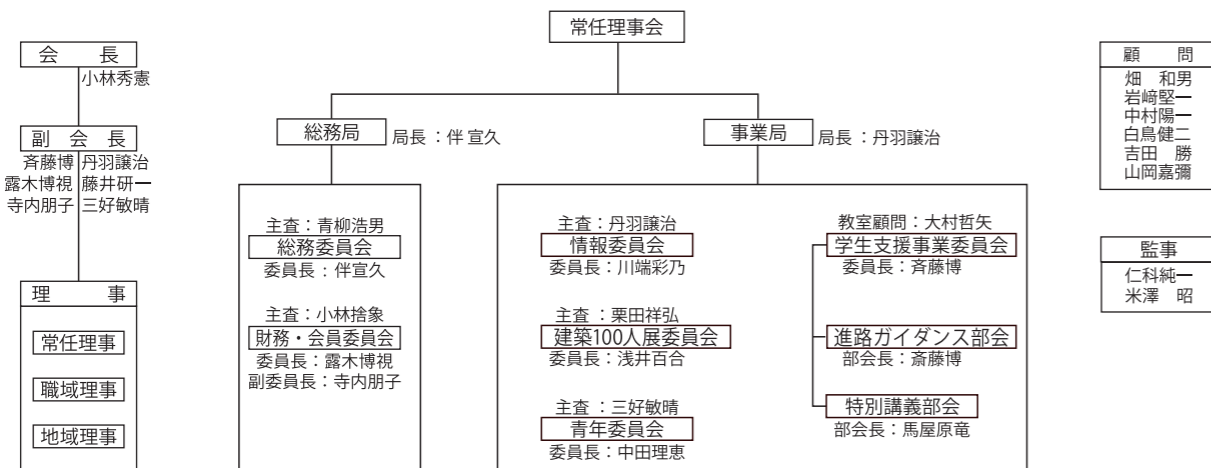
また、新たな世代に如学会を引き継ぐことを目標とし、委員会の数を集約し、活動内容を見直すことで、未熟なところ

がありますが新たな体制を作りました。8つの事業局各委員会を4つにして、さらに2つの委員会と部会では新たに30代の委員長と部会長を任命致し、30代委員長が3名部会長1名となりました。それぞれの活動に新しい息吹が吹きこまれました。また、常任理事と各委員の兼業を少なくし、それぞれの個々の負担を低減しました。

本年度は、総会をリモート開催いたしました。本来であれば、顔を合わせて懇談したいところですが、残念ながら限られた方々の参加となってしまいました。今年の新たな試みとして建築学科教室と連携し、学部2年生に向けて「キャリア開発」講座を9月に開催致しました。キャリア形成を目的とし、11人の卒業生にそれぞれの業種の説明を4日に分けてお願いしました。また6月には前期進路ガイダンス、8月に後期進路ガイダンス準備会、10月に後期進路ガイダンス、12月には建築100人展を2年ぶりに浅草展を開催できました。

「如学会NEWS」がお手元に配られた方は、お近くの同級生や、研究室の先輩・後輩の方々に如学会活動への支援をお願いしたいと思います。皆さん一人一人のご支援でなり立っているのが如学会です。開かれた如学会活動としてまいりますのでご支援をお願いいたします。

### 如学会 2021年度 組織図



# 建築学科の近況

## Message

建築学科 主任教授  
堀場 弘

1983 卒 シーラカンス K&H



略歴  
1983 年 武蔵工業大学建築学科卒業（現東京都市大学）  
1986 年 東京大学大学院修士課程修了  
1986 年 株式会社シーラカンス設立  
1998 年 シーラカンス K&H 株式会社に改組  
代表取締役として現在に至る  
2004 年 - 武蔵工業大学客員教授  
2011 年 - 東京都市大学教授

21年度から学科主任を仰せ使っております。学科の近況として、まず新任の先生方が3名着任されました。いずれもやる気にみち溢れた若手の先生で、建築学科に新風を吹かせていただけたと思います。後述ご紹介があるように面白い方々ですので、是非気軽にお話いただけたら幸いです。如学会とも風通しよく新たな良い関係が築けるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

次にコロナ対応です。リモートも定着して事務の効率化や移動時間の短縮などよい面もありますが、リモート授業にも慣れて、学生へのデメリットを心配しています。先輩後輩のつながり、友人同士のコミュニケーションの減少などリアル的重要性を改めて感じています。厳しい状況下でも、各々の学生は頑張っていますし、大学側も感染状況によって臨機応変に対応しています。今後は注意深くアフターコロナへの何らかの対応が必要だと思えます。

次にキャンパスでは各所で再開の工事が行われています。4号館の隣、新7号館が4月から供用開始し、等々力キャンパスの都市生活学部、人間科学部が移転します。またB地区の新10号館も秋には1期が完成し、理工学部の一部が移転し10号館が解体されます。新しい実験機器や設備などの準備などに忙しい状況です。私も新7号館の設計監理を担当

しました。1階は大教室とカフェ、2階は全学の国際フロア、3、4階には全学のゼミ室や特別教室、教員室があります。ZEB補助金を取得した省エネルギーにも配慮した鉄骨剥き出しの4階建の即物的な建築で、ガラスを多用した透明性の高い建築です。特に1、2階ではアクティブラーニング、国際化など学生の新しい学びの拠点となる枠組みを意図しています。如学会の皆様にも大学を訪れていただいて、その際にご案内できる機会を楽しみにしております。

建築学科では各先生方が新しい建築に貢献できる研究を進め、更に優れた卒業生を輩出していくことによって本学建築学科の古き良き伝統を繋いでいくことにつながります。大学全体では、留年退学生を減らす取り組みや学生アンケートの意見なども考えて細かな対応や日々改善、進化しようとしています。入試の偏差値を上げることはもちろん優秀な学生を獲得する入試改革も進めています。知識をたくさん持った学生というよりは、自ら学び続けられ、変化に対応して自ら道を切り開いて生きていける力をいかにつけられるか？授業以外にも総合的な学生の環境への取り組みが求められていると感じます。学生に本気で建築に向き合うきっかけをつかんで欲しいと考えています。是非社会人の本学建築学科の先輩として後輩の学生への温かいご支援をお願いします。

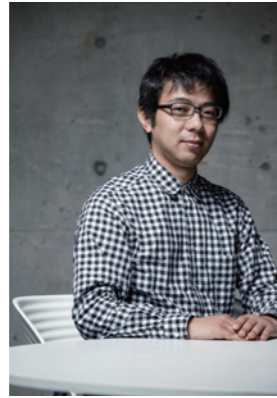


新7号館を広場から見る

# 研究室の先生の紹介 1

## Interview

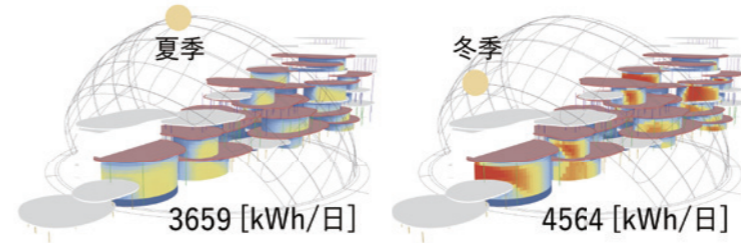
建築計画  
中川 純 准教授  
博士(工学)



### 略歴

1976 神奈川県出身  
2003 早稲田大学 理工学部 建築学科 卒業  
2003-2006 難波和彦 + 界工作舎勤務  
2006 レビ設計室設立  
2016 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 修士課程 修了  
2020 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 博士後期課程 修了  
早稲田大学 理工学術院 講師 (任期付)  
2021 東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科 准教授

### 最適化された夏季と冬季の壁面日射



徳島の劇場コンペにおけるシミュレーション



中川研究室所属の学生と共に

### 東日本大震災をきっかけに環境工学の研究へ

—先生の自己紹介を簡単をお願いします。

1976年生まれ、横浜出身です。化学を4年学んだ後に建築をはじめたので、大学には8年通いました。(笑) 建築の卒業論文では鈴木了二先生に師事しました。美学の中核をたたき込まれたと思います。卒業後は難波和彦・界工作舎で住宅や公共事業等の実務経験を積みました。難波和彦先生が東京大学に着任した時期に入所したこともあり、講義の準備をサポートする過程で、思想や倫理観、理論構築に直接触れる機会が多かったと思います。2006年に独立し住宅などを設計していましたが、建築環境工学を勉強したいと思い、2014年に早稲田大学田辺新一研究室に進学しました。この時期は仕事と研究と子育てが重なり多忙でしたね。その後、ご縁があって東京都市大学に着任しました。

—実務経験の後に環境工学に興味を持たれたのですね。

2011年の東日本大震災の影響が大きいですね。当時の建築界はコミュニティを取り戻すことに必死だったと思いますが、原発事故に対する深い反省も必要だろうと思い、建築のエネルギー問題に興味を持ちました。また、この時期に取り組んでいた自邸「15Aの家」の設計で悩んだことも転機となりました。形態と技術の統合に苦心するうちに、建築を通して解かなければならない問題が山積みであることが分かり、居ても立ってもいられなくなったのだと思います。学費の工面と基礎的な学力を身につけ修士課程の学生となりました。研究生活は大変充実していましたが、まだまだ学び足りないと思い、そのまま博士課程に進みました。

### 時間軸という視点でエネルギー問題を考える

—今の研究の内容を教えてください。

いま力を入れている研究はリノベーションになります。カーボンニュートラル実現のためには既存住宅の改修は外せない問題と考えています。また、最近は災害が多いので、仮設住宅の研究も始めました。あとはコロナ関連でしょうか。次世代の学びの空間を考えています。基本的なテーマは学生に委ねていますが、思いついた事は全部やります。(笑)

建建築環境工学の分野ですと、不均一・非正常な環境に興味があります。計画・意匠の観点に翻訳すると、環境の偏在性や時間軸の問題に置き換えることができ、近代建築が忘れていた時間の問題にも繋がります。一般に、時間のデザイン

は物質のエイジングなど視覚的に解くことが多いと思いますが、例えば回遊性のある空間に様々な温熱環境を与えることで、熱的なシーケンスという概念が生まれます。これの評価は触覚的なものになるでしょう。不均一・非正常な環境を考える事は建築を触覚的なものに拡張して考える事を意味しています。そして、この触覚的なものをいかに受容するか、このプロセスが大きなテーマになると考えています。先程の「15Aの家」は、15A (1500W) しか使えません、という提案です。発電所を減らすことは難しいと言われていますが、生活とエネルギーの関係を触覚的なものに変換し、それを受容する過程で不自由を少なくしながら最小限のエネルギーで生活する方法を考えることが重要と考えています。直近では、福島加津也先生の「高床の家」のお手伝いをしました。エネルギー源に太陽光発電と国産電気自動車の中古バッテリーを実装しました。このシステムによって、どのように生活をすれば送電網からプラグを抜くことができるのかを研究しています。この類いの研究は、人間と機械設備を同時に相手にしなければならず、機械や電気等の分野だけで完結するのは難しいと感じています。

あとは、半分趣味ではありますが、オープンソースハードウェアを使って、いままで測り得なかったものを計測するためのセンサなども開発しています。また、指向性のある新しい蓄熱材をつくってみたり等、物質にも手を出しており、どさくさに紛れて特許まで取得したのもあります。(笑)

### 建築家との共同で新たな研究に発展

—今実務ではどんなお仕事をなさっているのですか。

個人の仕事は住宅がメインとなりますが、最近は、環境エンジニアとして建築家からお誘いいただくことが増えてきました。コンペ等も蓋を開けると ZEB、ZEH にしなさいと書いてありますよね。石上純也さんにお声がけいただいた徳島の劇場のコンペも ZEB にしましょうと書いてありました。美学をもとにした形に対して、音響だけでなく光と熱、風を含む物理現象を合理的な近傍でチューニングするというコンセプトを提案し、形態に技術的なエビデンスを添えました。住宅や公共建築等で複数の建築家と協同していますので、近々、環境デザインの方法論をまとめなければと思っています。

### 建築のデザインと技術を等価に見ることが大切

学生には「建築は楕円である」と話しています。楕円には二

つの焦点がありますよね。ある集合を仮定したとき、その集合上の任意の点と二つの焦点のそれぞれの距離の和が一定であること、また楕円上の点から各焦点を見たとき、法線で分割すると等しい角度になることが楕円の定義になります。楕円上の点を建築、ふたつの焦点をそれぞれ美学・技術と定義するならば、建築は美学と技術のふたつの概念から成り立っており、建築が美学を重視したとしても技術は決してゼロになることはないし逆も然りであると言えますよね。また、建築は美学と技術を等価に見ていると解釈できます。特に意匠系の学生は技術に対する興味が薄いので、構造はどうなるのか、素材を決める根拠は何か、熱的にどう感じるか等、できるだけ分野をまたいだ指導をするようにしています。都市大を受験する高校生はデザインをやりたい子がすごく多い印象がありますが、技術にも興味を持ってもらいたいですね。(笑)

### 学生時代の「探求心」を忘れないでほしい

—ゼミ活動ではどんなことをやっていますか。

基本的には学生がやりたいことをやっています。初年度からテーマが広がり過ぎて大変ですが(笑)、研究になるかならないかの線引きはしっかり指導しています。ゼミ活動では、国内外の既往研究を調べ、それらを体系化した上で、何が研究されていないのかを自分の力で導き、研究における問いを立てる能力を身につけてもらいます。たった数行ですが、この問いを立てるトレーニングは一生役に立つので、執拗に教えています。あとは、この問いに対する仮説を構築し、それを証明するための調査と実験を行い、科学的に検証してもらいます。この一連の作業を論文の作法に則って文章にまとめていきます。卒業設計を履修する人も卒業論文は必須としています。

—学生に伝えたいことはありますか。

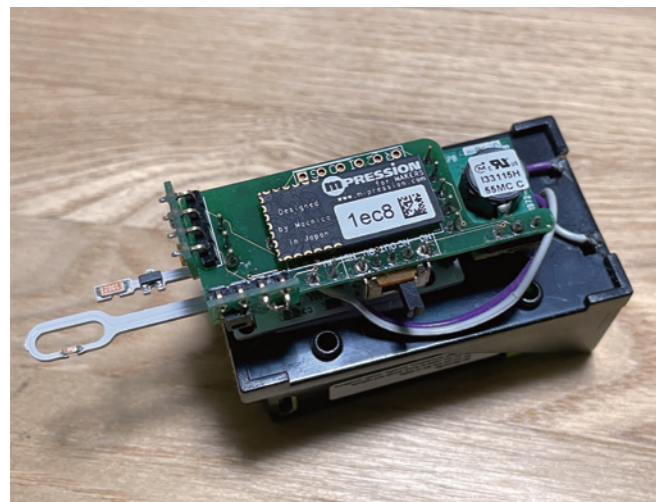
一般に、年齢を重ねると学びが少なくなります。社会に出て揉まれるうちに、学生の時に考えていたことをどこかにしまい込み、無表情な歯車と化す人もいるでしょう。大変難しいのですが、そうならないための大学教育が必要であり、強くクールでタフな夢を見続ける人間を育てたいという思いがあります。学生のみなさんには、気持ちの中枢が強い、学び続ける人間に育って欲しいですね。



研究室でのインタビューの様子



15Aの家 © Takeshi Yamagishi



独自開発したセンサー

## 研究室の先生の紹介 2

### Interview

建築材料  
落合 陽 講師  
博士(農学)



#### 略歴

1986 福岡県出身  
2010 東京大学 農学部 木質構造科学専修 卒業  
2012 東京大学大学院 農学生命科学研究科  
生物材料科学専攻 修士課程 修了  
2012~2015 株式会社 宮田構造設計事務所  
2018 東京大学大学院 農学生命科学研究科  
生物材料科学専攻 博士課程 修了  
2021 現職

#### バズる木造でいろんな人を巻き込む

—先生の自己紹介を簡単をお願いします。

福岡県出身の35歳です。今年から都市大の講師に就任しました。木造建築、木質構造の専門家ですが、趣味はキノコ狩りとちょっとツッコミどころがあると思います。他には、ライブに行ったりレコードを集めるという趣味もあって、常にバンドTシャツを着て生活しています。

—研究テーマや展望がありましたら教えてください。大きいテーマは、22世紀の地球のために木造建築に何ができるかということです。

私は研究活動によるテクノロジー発展が現代のためだけではなく、この先の100年、200年後を見据えた発展になるべきであると思っています。木材自体は炭素が固定されているので、適切な使用と植樹のサイクルを形成することで空気中のCO<sub>2</sub>量としては削減できていく。そういうサイクル形成のために何ができるか考えた結果、とにかく自分1人頑張るのではなく参加人数が増えれば増えるほどいいという結論になりました。

そのために、うちの研究室では木造建築の美観と機能性の両立に着目して研究に力を入れようと思っています。「バズる」木造という観点があっていいというか。「バズる」って注目されるっていう意味で、それがいろんな人を巻き込むには一番だと思っています。

#### きっかけは、「自分も設計をして作りたい」

—木造を研究し始めたきっかけをお教えてください。

地方出身なので、東京に憧れがあったところがあって。すごい勉強して東大に入ったんですけども燃え尽きてしまって、入ってから成績が悪かったです。東大では成績のいい人から行きたい研究室を選ぶんですけど、成績が悪い私は選択肢がなく、定員割れしているところから選んでその結果木質構造の研究室を選びました。そこで稲山先生という先生に出会いました。先生は学園祭で毎年木製の巨大パビリオンを作る企画をやっていて、いわゆる座学にもう飽きていた私は、この企画に衝撃を受けました。設計から加工、施工をすべて学生の手のみで行いパビリオンを作ります。私が入った時は先輩の設計の作品が製作されましたが、自分も設計をして作りたいって思い始めて。この企画は研究室内でコンペをやってその中の上位2作品が実際に作られるんですが、博士課程の学生だった30歳の時にようやく自分の設計したものが作れました。

これも構造デザインなんですよ。アーチを桁行方向に連続



たわみ計測の様子

させていって、その大小を作って空間はゆるく区切れる。屋根も三角形の影がこうやって落ちるだろうなって妄想しながら作りました。三角形の屋根はトラス効果もあるので、構造のデザインと意匠が一体化したものと提案して、実際に作れました。

#### 設計から加工まで学生とつくりながら考える

—都市大での研究の内容を教えてください。

パビリオン製作と木造耐力壁の開発を中心に研究をしています。特にパビリオン製作について説明をすると、今年都市大で作ったパビリオンは、ツーバイ材のフレームを3度ずつ回転させて作るシェルで、4年生2人が中心となって作りました。このパビリオンは、新しいビス留めラーメン接合を考えたという研究的側面と、学生のみで考えて作るという教育的側面もあります。

今回考えたビス留めラーメン接合は、材をずらして相欠きのゾーンを作りそこをビス留めするというもので、接合部が固まってラーメン的な効果を期待できるというものです。

例えば、坂茂の「光と翳の家」という建物は38ミリのLVLの薄い板で接点をビス留めで固めてラーメンとして利かせています。単独では非常に弱いので何枚も重ねて構造性能を確保しているんですね。

また、シネジックのオフィスでは木造の意匠表現として屋根をグリッドごとに角度を変えながら連続させていくというのをやっています。

それらを参考にしてパビリオンを作ってみようっていう話をしたんですね。

ここからは、学生が考えてくれた内容なんですが、正方形のフレームをずらしていくと、前から見ると正円になって、これを半分でブチッと切ってアーチ形状にします。横から見るとHPシェル形状になっていて、アーチとHPシェルの非常に強い構造になるんです。

設計のタイミングでは3DCADを使ってディスクッションをしました。そして、実物を作る前に高さ1m程の1/2スケールのモックアップを作り、制作の手順を確認しました。木造の加工をする機械も大学には簡単なものしかないので、極力シンプルで難しくない方法で作る必要がありました。みんなこういう作業するのはパビリオン製作が初めてだったので、どういう加工ができるのかこの時点でようやく学ぶことになりました。

完成した後は構造検証をしました。まずはパビリオンに600kgの荷重をかけてパソコンで解析し変形を確認しました。



壁-1 グランプリの様子

その後、実際に現場で人を10人乗せて解析と同じような条件でたわみを計測しました。

#### 初めての言い合いを経て学生が「ガチ」に

—実際に学生と一緒にやってみて、どうでしたか？

刺激を受けましたね。パビリオンの他の研究室の活動として壁-1 グランプリという自分が主催している大会があって、各々でオリジナルの耐力壁を作って、柱脚を固定した状態で2枚の壁を油圧ジャッキで引き合うんです。硬い方は全然変形しないけど、柔らかい方だけ変形しちゃう。その結果、柔らかい方が負けになるというトーナメント大会です。

今年はコロナ禍だったので、みんな同じ宿舎に泊まって寝食を共にする初めての機会になったんですが、その時にやっぱりもめるんですね。研究室のリーダー格の学生が駄目出しをして、担当者と言い合いになってしまっ。でも、今まで誰も研究室の活動に本気になっていなかったんですが、この時学生がちょっとガチになってくれたところがあって。壁-1では研究室チームは結局大失敗しているんですけど、その後みんな話合っってその後に行ったパビリオンは絶対失敗しないように頑張ろうって一致団結する瞬間がありました。私もその思いに動かされて、LINEで学生に「俺は都市大を変えたい」みたいな恥ずかしくて消したいようなメッセージを書きました。(笑)

#### 好きな事を持って、意見を言える人になってほしい

—学生に伝えたいことはありますか。

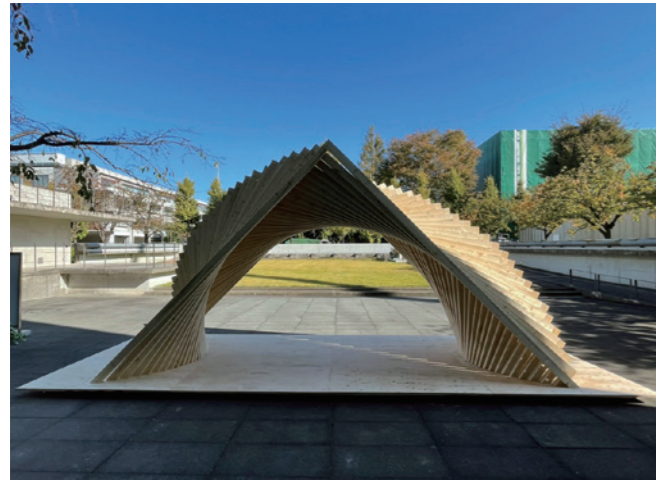
好きな事を持って欲しいです。仕事って好きじゃないと続かないじゃないですか。木造の事を好きになってくれたらそれが一番いいと思いますけど、そうじゃなくてもいいと思います。いろんな事をやれる時代だし。

—先生がここに来ることで学生たちに吹かせたい風はありますか。

意見を言える人になってほしいです。一緒に過ごしてみても、自分の発言とかアイデアを否定されるのを恐れているように見えたんです。都市大では設計の授業の比重がかなり大きくて、そこそこキツイことも言われる。そのときに、反発できる人はいいんですけど、反発できない人がどちらかというとエンジニア系に来るんじゃないかな。自信がない感じがちょっとありますね。実はパビリオンの設計をやった学生がめちゃくちゃ優秀な学生だったんですけど、私が出した課題に対して何かしら解決方法をよく考えてくれる学生で、そういう人がもっと出てほしいと思っています。



研究室でのインタビューの様子



落合研究室で製作した木製パビリオン



学生時代に製作した木製パビリオン

## 研究室の先生の紹介 3

### Interview

建築史

片桐 悠自 講師

博士(工学)



撮影：山岡 肇

略歴

1989 大阪府出身

2012 東京大学工学部建築学科 卒業

2017 東京大学大学院博士課程 修了博士(工学)

2017~2021 東京理科大学理工学部建築学科 助教(岩岡竜夫研究室)

2021 現職

#### LEGO 部からアルド・ロッシへ

—アルド・ロッシを研究されていますが、そのきっかけについて教えてください。

学部時代の建築意匠論の授業のスライドで、アルド・ロッシのある作品がでてきました。その作品は「セグラテの噴水」というもので、正三角形がキャンチレバーで突き出たような形の噴水です。形が独特で、良いなというよりは訳が分からないというか、これが建築なのか!というふうに感じました。

私が東大の学部生のときは、SANAA や石上純也さん、藤本壮介さんのような、建築の形をどのようにデコンストラクション的かつスーパーフラットの的にしていくか、そういった方向性で設計課題を提出する先輩や友人たちも多かったです。こうした環境の中でロッシのように〈貧しい幾何学〉を強調した形というのがあまりなかったということが、気になった理由としてあるのかもしれない。

その後パリに留学した際に、イタリア人の友人が多くできたことでイタリアへの関心も深める事になり、博士論文ではアルド・ロッシと彼の主導した運動「テンデンツァ」を題材について書くことになりました。修士課程で所属していた研究室の加藤耕一先生から、「博士に進むならやりたいことを研究したほうがよいよ」という言葉ももらった事も大きかったです。

—ロッシの幾何学に惹かれた理由はなんですか。

学部時代にレゴブロックで建築作品をつくる「東大 LEGO 部」という活動をやっていまして、学園祭で作品を展示していました。そこで色々情熱を向けて作っていたというのも関係しているのかもしれない。

スカイツリーをレゴでつくったんですが、あれも実はシンプルな幾何学で構成されてるんですよね。正三角形からおにぎり型になって円になっていく……。LEGO 部という課外活動もあいまって幾何学に興味があったのだと思います。

#### 言語化すること、表現することの大切さ

—片桐ゼミはどんな研究室ですか。

私がこれまで所属した研究室が、意匠系、歴史系、計画系のくくりを複合的に捉えていたこともあり、研究室全体の方針として、分野の小区分を厳密に決めつけるということはないつもりです。歴史に興味がある学生も大歓迎だし、設計をやりたい学生も、歴史・意匠をやりたい学生も、建築論を突きつめたいという学生も歓迎しています。そういうふうにして、私の研究室は「建築理論研究室」を名乗っております。(笑)



片桐研究室での横浜大根橋への遠足

—ゼミ活動ではどんなことを行っていますか。

私の研究室では、まず建築を身体として捉えるという事を重要視しています。建築を実際に体験してみるために、密を控えながらの「建築遠足」を定期的実施しています。2021年度は、6月にカプセルタワー、7月に横浜大根橋、9月に丹下健三展、11月に広瀬鎌二先生の展覧会に行きました。図面を見る事と併せて建築を実際に体験することで、学生に建築について考えてもらう機会をつくっています。

また、ゼミでは「読書メモ」という事例研究をやっています。片桐研究室には推奨読書リストというのがありまして、建築や思想系の本と併せて、『ブレードランナー』、『未来世紀ブラジル』など建築を考える際に役に立つ映画、また漫画もリストに入れてあります。

学生には本と、映画と、建築関係書籍など、3つくらいの読書メモを書いてもらって、最初に学生がどういう興味を持っているのかを知る手がかりを掴むようにしています。学生には読書メモを通して言語化することの大切さ、表現することの大切さを知ってほしいです。言葉にするトレーニングと、それを図的に表現するトレーニングは研究の基礎になるということで、こうした事例研究をきっかけにして、研究テーマを自分で考えてほしいと思っています。

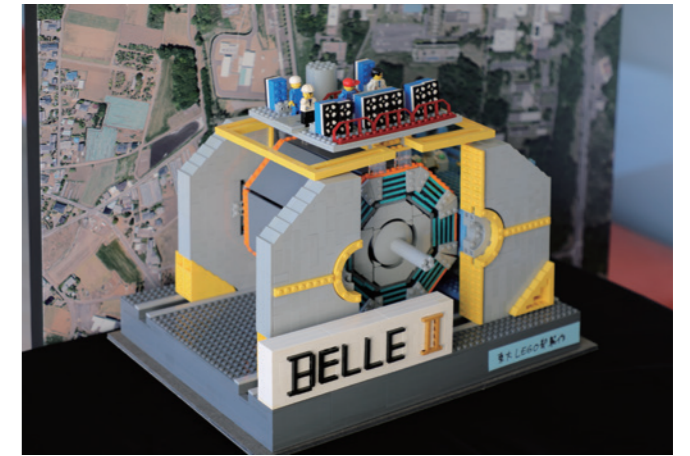
#### ブロック玩具から見えてくる抽象性

—今後についての展望があればお聞かせください。

著作を書きたいと考えております。

今、福島研・手塚研の大学院生らと交えて一緒に〈組積研〉という活動をしています。設計は簡単な形をどう建築におとしこむかが一番大事で、ダイアグラム作りの一つの方法として立体的なブロックから考えてみるという事を試しています。例えばブロック玩具の抽象化された形が、建築の発想の原形になるなど、設計の役に立つのではないかと考えています。学生とワークショップもやったりして、そこから書籍化に繋げていけたらと考えています。まずは、その基盤になる理論や幾何学というものを言葉としてまとめていきたいです。

あと、ロッシやマンフレッド・タフーリを扱った単著ですね。多くが絶版になっていて、また研究書としてまとまった本が日本語で見当たらないので、ロッシやタフーリ、テンデンツァ運動の入門書的な、わかりやすい本を書きたいと考えています。特にロッシは形が独特なので、作品紹介も含めて書きたいですね。



素粒子加速器 Belle II のレゴ模型 2011 年インタビュー(作成) 写真提供: KFK

自分の中で何が大事なのかを自覚する

—学生に伝えたいことはありますか。

映画はたくさん見て欲しいです。映画を見て、そこから映像を断片でいから表現するというのをやってもらいたいです。話の大筋はネットを調べれば分かります。それと異なって、映画のあるシーンの中でどういう表現が使われているか、演出がどうなっているかを分析するという経験は、実は建築の研究にとっても役に立つのでおすすめです。あとは美術館鑑賞ですね。美術館も動線が決まっています、ひとつの物語としてキュレーターが企画している。あと本も流れがある。それをひとつのイメージとして捉え、改めて言語化してみるということをやってみたり。旅行に行ってもそこで何が印象に残っているかをスケッチに描くなり実測するなり、日記にするなり、自分なりの手段で表現することをトライしてほしいです。

総体として捉えることと部分的に捉えることは互いに補い合っていると思いますが、ひとつの断片をとらえる事で、それがその人にとって重要だとわかる。自分自身でも意識していない事が大事なんだと自覚することは、これからどういう進路を描くのか、どういう研究をしていくかを考える時に糧になっていくのではないかと思います。自分の中で何が大事なのかという事を知って深彫りする事は大学でしかできない事だと思うので、そこをぜひ意識してほしいです。

#### コンテキストへの想像力を持つ

—コロナ禍を経て感じていることはありますか。

これだけインターネットが普及している社会において、同時にネットでは出来ない事がかなり露呈してきてきたと感じています。私はイタリア語をやっているのですが、イタリア語は日本語と同じように主語代名詞が省略されます。ただ、そういった主語省略を google の自動翻訳などの AI では補完することは難しいのです。日本語の古文だと主語が省略されていて、コンテキスト(背景)を理解しないとわからないような事がありますよね。そのコンテキストは AI では分からない。今の情報化社会では既にある正しくみえる「情報」を拾ってきて、終わりにしてしまうことが多いです。そこに対する文脈とか背景がおざなりになってしまっているように感じています。これからは、バックグラウンドにあるものが何かという事を考えないとやっていけない。頭の中で考えている事を、画面より広くとらえて表現することがより重要になるかなと考えています。



研究室でのインタビューの様子



アルド・ロッシ設計「セグラテの噴水」(ミラノ郊外)

#### 都市大に赴任する喜びとともに

—先生の自己紹介を簡単にお願いします。

出身は大阪で、2008年に東京大学に入学しました。2012年学部卒業後、東大大学院修士課程と博士課程時にパリ・ラヴィレット校に留学しました。博士卒業後は、東京理科大学理工学部建築学科で4年間助教を務め、本学に2021年4月に赴任しました。

—都市大に興味を持っていたとお聞きしました。

絵を描くのが好きだったので、学生時代の頃から手塚先生のパースの本などを読んでいて、格好良いなと思っていました。堀場先生、手塚先生、福島先生など学校出身者のアーキテクトが教鞭をとられているという所がいいなと感じて、東京都市大学の意匠計画系のメンバーとして赴任したことを大変嬉しく感じております。

# キャリア開発

## Report

教育講師（キャリアコンサルタント）

藤井 研一

1982 卒



建築学科では 2021 年度からキャリア教育を一層強化することとし「キャリア開発」（2 年生対象・必修）という科目を新設しました。本授業は、学生が主体的に今後のキャリア形成を考える機会を提供すること、建築と社会との係わりを理解すること、建築の業務を理解することを目標としています。この授業は、2005～2019 年に実施され延べ 222 人の講師に登壇いただいた如学会寄付講座「建築の実務」（特別講義・夏期集中講義）を継承・発展させたものです。授業構成は、第 1 日目の「キャリアデザイン」、第 2～5 日目の「建築の実務」としています。「キャリアデザイン」は、藤井が担当し、ライフキャリアの概念、キャリアを考える上で関連する社会情勢、自己理解の方法、就職活動、大学院への進学

などの講義を行い、グループワークや個人ワークを通じて学生が自身のキャリアを考える機会としました。「建築の実務」では、授業日毎に「設計」、「施工」、「エンジニアリング」、「まちづくり」のテーマを設け、各分野でご活躍のロールモデルとなるような卒業生に講師をお願いし 80 分（講義 70 分＋質疑応答 10 分を目安）の授業をご担当いただきました。講義では、業界事情、所属企業等の業務内容、ご自身のキャリア形成や社会でのご活躍の様子、子育てなどを含むライフキャリアのお話をしていただきました。さらに授業後に講師による討論会を行い、司会の進行でテーマ分野のキャリア形成についての話し合い、学生からの質問対応をしていただきました。また、最終日の最後に講師の方々による懇談会（授業外・学生任意参加約 90 名）でキャリアについて話し合っていたいただき、学生からの質問にご回答いただく機会としました。

受講した学生（2 年 111 名 3 年生以上 19 名 計 130 名）には、各講義の感想を課して振り返りをしてもらいました。また、授業期間後に「2031 年の私 これまでの 10 年を振り返る」と題するレポートを課して、今後 10 年のライフキャリアを展望してもらいました。夏期休暇中、連日 13：30～18：20 の集中講義で、しかもコロナ禍ですべてオンライン授業となり、学生にはハードな一週間でした。しかし、学生にとっては、建築の奥深さ、幅広さを実感し、今後のキャリア形成を考える良い機会となったものと思われま

す。最後にご協力いただきました講師・司会をはじめ如学会関係者の方々に改めて御礼申し上げます。

2021 年「キャリア開発」（建築の実務）時間割・講師一覧

	13：30～14：50	15：00～16：20	16：30～17：50	18：00～18：30	司 会
設計の日 9月14日(火)	荘司麻人 (2010 卒) SUPPOSE DESIGN OFFICE	浅井百合 (2007 卒) 浅井アーキテクト	小林秀憲 (1982 卒) 松田平田設計	講師による討論会	栗田 祥弘 (1998 卒) 栗田祥弘建築都市研究所
施工の日 9月15日(水)	齋藤大輔 (2017 卒) 須賀工業	山内浩実 (1987 卒) 大成建設	北嶋亮介 (2010 卒) 住友不動産	講師による討論会	近藤隆二 (1993 卒) 清水建設
エンジニアリングの日 9月16日(木)	高橋修一 (2008 卒) 建築構造研究所	今村雅泰 (1999 卒) ピーエス三菱	川口佳子 (2006 卒) 日建設計	講師による討論会	三好 敏晴 (1998 卒) 造研設計
まちづくりの日 9月17日(金)	羽生晃子 (2007 卒) 横浜市役所	打矢潤市 (2000 卒) 東急	講師による討論会	懇談会 学生任意参加	馬屋原 竜 (2011 卒) DAICHI

2022 年「キャリア開発」（建築の実務）時間割・講師一覧（予定） ※日程・講師・司会が変わる可能性があります。

	13：40～15：00	15：10～16：30	16：40～18：10	18：20～19：20	司 会
設計の日 9月13日(火)	麻殖生 龍哉 (2002 卒) マイオ建築研究所	秋山 裕子 (2001 卒) 竹中工務店	村松 弘治 (1982 卒) 安井建築設計事務所	講師による討論会	浅井百合 (2007 卒) 浅井アーキテクト
施工の日 9月14日(水)	塚本 和之 (2003 卒) 東洋熱工業	高橋 剛 (1997 卒) 清水建設	藤田 麻美 (2016 卒) 三越伊勢丹プロパティ・デザイン	講師による討論会	中込 昭彦 (1991 卒) 大林組
まちづくりの日 9月15日(木)	秋山 健 (2007 卒) 台東区	藤田 弘樹 (1986 卒) 積水ハウス	新井 章邦 (1988 卒) 日建設計	講師による討論会	打矢 潤市 (2000 卒) 東急
エンジニアリングの日 9月16日(金)	木嶋 満 (2001 卒) NTTファシティー	高橋 祐三 (2008 卒) 佐藤総合計画	講師による討論会	懇談会 学生任意参加	小林秀憲 (1982 卒) 松田平田設計

## 設計の日 「アトリエ事務所での仕事とこれからの事」

講師 1

荘司麻人

2010 卒 SUPPOSE DESIGN OFFICE



レポート 1

馬屋原 竜

2011 卒 DAICHI



タイトルは「アトリエ事務所のこととこれからのこと。」で講義は始まった。まずは、在学時代の記憶をさかのぼりながら、面白エピソードを交えながら話す講師の笑顔が印象的だった。「自分がいいと思うものをつくる」「やりきる強さをみにつけた」「仲間との時間を大切にす」他にも金言がたくさんあり、在学生には響いたのではないかと。おそらく荘司氏の在学時代に培った経験や価値観が、アトリエ事務所に進むきっかけになったのではないかと。筆者の荘司氏の一学年下だったこともあり、あの日の光景が浮かび上がったのはここだけの話にしたい。

さて、アトリエ事務所に就職して大活躍する荘司氏は、勤続して 10 年以上。初期から現在に至るまで写真を交えてお話いただいた。ただの作品紹介にならず、「新人」「中堅」「ベテラン」でのキャリアステップの中で、建築との向き合い方がどう変わっていったのか、その時の心境はどうだったのかなかかりリアルに話していた。楽しいことだけでなく苦しかったことも赤裸々に話されており、様々な経験が今の荘司氏をつくりあげているのだろう。

話は終わりに近づき「これから」について語っていただいた。「わくわくすることをやり続けたい」「アトリエ事務所に在職しながら企業内ベンチャーで独立」など、昨今のワークスタイル刷新に触れた話が印象的だった。固定概念にとらわれず、自分らしいキャリア構成を先輩の前で自信をもって話す姿に、「アトリエスタッフ」ではなく「建築家」としての顔が見え始めた瞬間だった。

最後は在学生からの質問時間。「アトリエ事務所」という働き方に対する質問が多い印象があった。代表の谷尻氏との関係性を問われた際の印象的だった回答として「自分（荘司氏）が谷尻氏と意匠的な観点でずれがあった際は、忖度せずに自分の意見を主張する」があった。おそらくそこには、少数精鋭ならではの人間距離感が介在しながらも、本質的に荘司氏の建築に対する愛情や拘りがあってのことだと思

う。憧れで入ったアトリエ事務所であっても、主体的にプロジェクトに取り組む荘司氏の姿勢に学生たちは刺激を受けたのではないかと。おそらく設計授業でも同様のことができるはずでは。

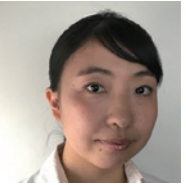
しっかりと建築家としてのキャリアを考え始めた受講者の今後に期待したい。

## 設計の日 「個人設計事務所という選択」

講師 2

浅井 百合

2019 卒 浅井アーキテクト



レポート 2

野田 路人

1973 卒 EGP



簡単なプロフィール紹介の後、浅井講師が用意した多くの写真を見せながら建築に係わるきっかけから設立した現事務所の作品や現況、実社会での現場の様子や建築設計の姿勢など幅広くの講義をされた。

高 3 時、グエル公園のタイル写真を見たのが建築の意匠系に進むきっかけで、実物をバルセロナに見に行った話や、本学と環境を変え情報量を増やしたいと考え、興味のある都市計画のある横浜国大の Y-GSA へ進学、Y-GSA 在学中にインターシップに応募し、半年間をアムステルダムで過ごした体験談や北欧旅行で感じた話など、行動力の必要性やこれからの進路を考えるきっかけになり、施工中の現場の様子や作品の意図を設計者から直接聞く機会は学生達に良い刺激となった。

個人事務所とは「プロジェクトに最後まで係わり、デザインの最終責任を負い、時間の使い方は自分で決められる」と話し、現在 4 歳の娘さんを小さい時から事務所に連れて来た写真を見せ、仕事とプライベートが無かったがそれでも仕事は楽しく、成長と共に楽しい時間の使い方を広げ、如学会や横浜国大の OB 会にも参画している話に加え、本日の講師ともども終電や零時以降まで働く経験をしているが、現在はかなり変わって来ており極力定時には終業している話は、建築に係わり家事と仕事の両立が出来るか不安を持つ女性にも勇気付ける話でした。

卒業後、新居千秋氏のハードな指導を受けた事は今の力になり、特に要望の具現化・諦めない姿勢はプロジェクトに係わる人の共通理解を得る事が出来ることを実感し、建築を造ることは「未来・都市計画を創る事」を学んだ。「建物を建てるのと周りに影響を与えるので、街と馴染むことを意識し、建築単体でなく、敷地の周りを歩いてどう街を創るか、そして何を変えたいかを考える。」など設計姿勢について語り、最後に「こんな時ですが、立体は情報量が多いので直接建築を見る様、是非足を運ぶべき」と学生へアドバイスを

## 設計の日 「組織設計について」

### 講師 3

小林 秀憲

1982 卒 松田平田設計



### レポート 3

寺内 朋子

1991 卒 studio T2



武蔵工大修士課程を修了して、松田平田設計に入社し、建築設計部長、執行役員、取締役を経て、現在エグゼクティブフェローという経歴の、如学会会長でもある小林秀憲氏の話聞いた。

大学では広瀬謙二研究室に入ったが、先生は何事も凌駕する大先生。大先生について設計をするよりフラットな事務所で働きたいと思い、組織事務所である松田平田に入社された。組織設計事務所の仕事の特徴を説明されたが、事務所により専門性が高い得意分野があるので、やりたいビルディングタイプが得意な事務所を狙うといいだろう。仕事は、企画・基本・実施・監理という明快な設計ステップを踏んでプロジェクトが進んで行く。組織事務所は人が変わりながら組織として存続するのが特徴。

多様な職種が社内にいる、同期がいる、チームなので一人一人の負担軽減、業務時間拘束に上限がある、福利厚生充実などのアドバンテージを挙げられ、ディスアドバンテージは、プロジェクト期間が長く複数並行して進行する、ゼネラリストよりスペシャリストというが、それほどディスアドバンテージとは思えなかった。

欲しい学生は、設計だけでなく全体の成績がいい人、誠実な人、メンタルが強い人、向上心がある人、求められた以上の答えを出そうとする人、仲間と一緒に仕事ができるが、一人でも仕事もできる人、建築が好きなのというが、特にメンタルが弱い人は、克服しておこう。筆者は心理学も学んだが、メンタルを強く持つには、REBT（認知療法の一つ）は自分でもできてお勧めである。

学生にやってほしいことは、自分の作品（評価できる作品）を多くつくる、他者に理解してもらえるオリジナリティをもつ、自分の可能性を最大限広げられるだけ広げる、やれることはやれるだけやる、なるべく多くの建築を見る。現代建築だけでなく、古建築やローマ建築などのディテールも、とのこと。採用は、院卒生がほとんどだが、手で書ける、絵が上手な人は有利で、学部卒でも採用されることがある。これは激しく同意する。筆者は現在、近現代建築家の図面資料を扱っているが、力強い手書き図面、美しい手書きのパスやスケッチに出会うと、それだけで説得力があり、オーラを感じ、手が止まる。これが書けたから大物建築家なのだと思う。組織設計事務所ですら上までのぼった人が語れるキャリアの話がとても興味深かった。中でも「日商岩井本社ビル」担当の時、世界一周して本社ビルを見て回ったというのは、かなりうらやましい。

## 設計の日 討論会

### 司会

栗田 祥弘

1998 卒 栗田祥弘建築都市研究所



### レポート 4

丹羽 譲治

1973 卒 デザインサークル



討論会は、アトリエ事務所の浅井氏と荘司氏、組織設計事務所の小林氏、司会はアトリエ事務所主宰の栗田氏で行われた。

#### A. 向いている人、求められる人

小林：居心地のよい会社として周りを作れる人。人は財産なので会社をやめない人。

荘司：建築が好きであること。楽でない業界なので、メンタルが強く、体力があり、ポジティブな思考の持ち主であることが要求される。センスは経験でついてくる。

浅井：最初はわからないことだらけで辛かったが、次第にできることが増え喜びに変わった。そういうことを楽しめる人。

#### B. 海外事務所について

浅井：オランダではインターンでさえ、仕事管理の意識が高く、定時に帰宅していた。

栗田：オランダ、フランスでは、アーキテクトとして事務所に束縛されてない。19時以降、休日は自分の仕事をして過ごす。

#### C. コミュニケーションについて

小林：コミュニケーションは重要で、上司、部下に助けられた。飲食もコミュニケーションと思い部下を誘うとパワハラと言われた。

栗田：隈研吾年建築事務所の所員選定基準は、設計ができること、施主とコミュニケーションができることであった。実施設計図書は施主へのラブレターと指導された。

荘司：谷尻氏に施主は恋人であると言われ、メール、電話で施主に対して連絡を絶やさない。

#### D. 建築の楽しさについて

小林：建築を作るのは大変だが、完成して良いものができ、最後が良ければ全てよしとなる。

荘司：個人の住宅をやりたい人はアトリエ事務所を勧める。夕食に呼んでもらえたり、子供が産まれて改装の相談を受けるなど竣工後も施主と長く付き合えるのがいい。そして予期しない使われ方、意図してない使われ方をされるのが嬉しい。テラスで秋に半分以上食事している。竣工後の状況を SNS で確認できるのが良い。

浅井：施主にとって建築を建てるのはすごいエネルギーが必要である。仕事で仲間が増える。住宅に3000人関わっていた。責任が重いけど楽しい。

設計事務所での就業時間の短縮は学生にとって好材料だが、講師、司会者が若い時の修行時代に経験した長時間労働が、のちに重要であったと皆述べていた。一心不乱に打ち込む時期は、設計に携わる人にとって必要であると思う。

## 施工の日 「建築設備について」

### 講師 1

齋藤 大輔

2017 卒 須賀工業



### レポート 1

露木 博視

1980 卒 オフィス露木



齋藤氏は入社5年目の若き施工技術者です。

本学での出身学科は、工学部機械システム工学科です。

ご自身のプロフィールによると、学生時代は自動車メーカーと共同研究をされていたそうです。なぜ、建築業界に進まれたかと言うと、車内環境から建物居住環境に自身の視野を広げた結果、建築設備に結び付き、校友会主催・進路相談会で須賀工業株式会社に出会い就職されたそうです。

講義は、まず建築設備の説明を空気調和設備、給排水衛生設備と順序だててわかりやすく丁寧な説明をされた。学生にも建築設備の魅力が十分伝わったと思う。『建物に設備をインストールし生きた施設へ』というアピールが印象に残った。須賀工業の説明では、齋藤氏自身が明治34年創業の老舗の設備工事会社としての強い誇りを持ち仕事をされていることが感じとれた。また、会社組織、工事部門、設計部門の説明では、組織構成をよく理解することができた。

入社後の御自身のキャリアへと講義は進み、大規模競技施設での実務体験、また初めての空調設備工事担当となった某ビルでの設備試運転試験の緊張感など実体験を交えながら、ご自身の業務活動での位置づけなどを細かく説明された。また、職人さんとの交流は現場ならではの話だった。

最後に今までの経験を通して得た「サブコン工事部員のやりがい」を6点揚げられた。

地図に残る仕事ができる。自分で工事を計画できる楽しさ。エンドユーザが快適に過ごせる環境づくり。私たちの生活に密着している。全てがオーダーメイドな仕事。チームワークを大事に一つのものを作る。

齋藤氏が今までの実務経験を通して得た、仕事の楽しさ、意欲、工事への想いが十分伝わる言葉である。

後に受講した学生からの感想文に目を通すと、わかりやすく丁寧な説明、工事の面白さの話など、いままで建築設備工事に興味を持っていなかった学生にも良い刺激を与え、興味を持たせ、齋藤氏の後に続く者が出てくるのではないかと期待させる講義だった。

## 施工の日

### 講師 2

山内 浩実

1987 卒 大成建設



### レポート 2

寺内 朋子

1991 卒 studio T2

大成建設営業本部、目黒祐樹似の山内浩実さんの話を伺った。筆者は以前、雑誌編集の仕事で、スーパーゼネコン技研の方などと仕事をしており、大変なお仕事の話がたくさん聞いたことを思い出していた。

ゼネコンの仕事の3つの特徴「唯一無二の仕事」「スケールの大きい仕事」「生活基盤をつくる仕事」の説明を聞き、「地図に残る仕事。」という大成建設のキャッチコピーは、ゼネコンの仕事をよく表していると思った。

施工管理の仕事では、「Q:品質管理」「C:コスト管理」「D:工程管理」「S:安全管理」に加えて、大事な業務の一つとなっている「E:環境・近隣関連業務」をひとつひとつ丁寧に説明された。工事の流れをもう一度復習したい人は、日本建設業連合会編『施工がわかるイラスト建築生産入門』（彰国社）をお勧めする。

また、近年ゼネコンのプレスリリースを見ると、以前はもっと書類仕事が多かったようだが、最近は技術開発のおかげで時短が進んだようだし、品質管理もロボットが開発されるなどして、だいぶ楽になっているようで、その時短の分、安全管理などを徹底できるようである。

エンジニアリングの説明では、大成建設の最近の例として、赤坂プリンス解体のテコレップシステム、新国立競技場のT-CAPSなどを紹介された。新国立競技場は大幅な赤字を生んだが「名誉」を取ったのだと。ほかの大成建設の方に聞いた話だが、新国立競技場は、設計者が納まりや施工方法を考えずにデザインするので、研究部門フル稼働で技術を開発し、いくつもの特許も取っていると聞いた。ディテールを設計しない設計者は、ゼネコンを育てるようである。

施工実績の説明では、多くの有名建築を紹介された。海外でも施工実績はあるが、日本の契約約款が緩く海外では通用しないため、赤字になることが多いという。

山内さんに「会社から来ると言われるまで働きたい」と言わしめる大成建設は、山内さんにとって魅力的な出会いがたくさんあったようだ。学生時代の生き生きと働くリクルーターに始まり、初めての現場所長は懐の深い尊敬できる人。コロナ禍の学生にアドバイスしたように、時代や状況の変化に適した方法を考え、マイナスに考えない。何もできない時代にできることを考える。そういった考え方こそが、スーパーゼネコンを心地のいい場所にしたに違いない。

## 施工の日 「学生時代から今日までを振り返る」

### 講師 3

北嶋 亮介

2010 卒 住友不動産



### レポート 3

馬屋原 竜

2011 卒 DAICHI

14

住友不動産のオフィスビルで施工管理を行う北嶋氏の講義は、まさに「在学生のキャリア形成の視野を広げる」ことに寄与したのではないかと。大学卒業後に、インテリア業界のイリア（鹿島グループ）に新卒で入社し、施工部門で業務をスタートした。そこまでの道には在学くじに様々なエピソードがあったようだ。

在学中に設計の道に進むか悩みだしたころ、周りとの温度差を感じたという。今でも起こりうる葛藤の中、北嶋氏は授業で優秀な成績をおさめ希望する研究室への配属となった。モノづくりへの興味関心はあり、キャンパスイルミネーションがきっかけで、「実際に手を動かして空間を作ることへの喜び」を得たそうだ。また、在学中に資格を取得しよりインテリア業界への興味関心が高くなったという。しかしながら当時は就職氷河期真っ只中、紆余曲折ありながらイリアへの就職が決まったという。

イリアでは、内装工事業者として、ホテル・オフィスの内装を専門的にやってきた。内装工事は短期間でさまざまな空間を施工できることが魅力的だと感じたそうだ。もともと飽きっぽい性格という北嶋氏にもよかったようだ。6年間、職能を磨き続けたが、結婚を機に価値観が変わった。夜間工事が多く拘束時間が多かった環境の中、住友不動産への転職を決意した。

住友不動産では、日本を代表する大手デベロッパーである。結婚そして子供誕生など、人生のキャリアにおける大事なタイミングでなぜ転職したかを実体験をもとに語った。生々しい話まで飛び出したが、内容はここでは伏せておく。業務としては、ビルへのテナント入居工事を行っている。工事一式を請け負うので、様々な工事を学ぶことができるのが今でも楽しいようだ。施主との距離感が近いので企業の代表とコミュニケーションがとれるのが有意義である。

最後に在学生へのメッセージは北嶋氏らしさがあふれていた。「社会に出ると学生時代と比べてすごく大変。その分様々な経験を得れる。お金を稼ぐことも大事だが自分の興味のあるフィールドで頑張るべき。後悔のない選択のために、在学している今から勉強しましょう」というエールでこの講義を締めくくった。

## 施工の日 討論会

### 司会

近藤 隆二

1993 卒 清水建設



### レポート 4

丹羽 譲治

1973 卒 デザインサークル

討論会は、20代の齋藤氏、30代の北嶋氏、50代の山内氏：司会は50代の近藤氏とバランスの取れた年代構成となった。

#### A. 終身雇用について

北嶋：これより上がないという会社であれば、転職の必要はないが、内装に特化した会社だった為、設備工事ができる会社へ転職した。仕事ができる自負がある人は、自分で起業すればよいと思う。

山内：転職に否定的ではない。今の仕事が面白いので、自分のやりたいことがなくなったらやめる。

齋藤：転職は考えてたことは無い。上り詰めて社長になりたい。

#### B. 転職のタイミング

北嶋：ずっと同じ会社にいると変化が少ない。転職を機に視野を広げ勉強し直すことが出来た。うちの会社の場合、技術職の8割から9割が転職者で、さまざまな職種で経験を積んできた転職者と話す視野が広がることが多い。

#### C. 3年離職、転職の増加

山内：病院の看護師、専門分野はヘッドハンティングで人材を確保している。ネームバリューで入ってきた人は離職しやすい。

齋藤：転職が少ない会社。入社5年経つが同期は退職していない。転職してくるのは同業他社が多い。よく会社を研究して、やりがいがあるかを考えて就職して欲しい。

近藤：かつてゼネラリストが求められたが、働き方の多様性で、違う分野でキャリアを活かせる様になった。

#### D. コロナ禍で仕事のやり方が変わった

北嶋：現場の作業に大きな変化はないが、テナントのオフィス環境は在席数が少ない為フリーアドレスが多く、入社した際に仕事の用途に応じて集中席やリラックスマークが選べる作りが増えている。

山内氏：現場は休めない。支店・本社の内勤は4割在宅勤務。6割から7割はテレビ会議で事足りる。コミュニケーションは増えている。

齋藤：コロナ禍で変わったことはリモート会議が増えて。本社に顔を出すことがなくなり、提出物がスムーズになった。しかし、現場は変わっていない。

#### D. 会社が求める人物像

齋藤：上昇志向のある人。 コミュニケーションをとるのが好きな方。明るい方。

北嶋：やる気のある方。コミュニケーションが大切で、女性で活躍している方も多い。

#### D. 学生にメッセージ

齋藤：建築は分野が広い。自分の視野を広げて、深掘りして就職に繋がって欲しい。

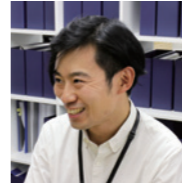
山内：就職すると時間がないので、思いっきり遊んで見聞を深めて欲しい。北嶋：必ずしも建築業界でなくても良い。自分のアンテナに従って後悔のない選択をし、価値観が変わった時、転職を考えても良いと思う。

## エンジニアリングの日 「構造設計業務の紹介」

### 講師 1

高橋 修一

2008 卒 建築構造研究所



### レポート 1

三好 敏晴

1998 卒 造研設計



Grasshopper、Rinoceros、MIDAS、NASTRAN、Revit・・・デジタルルーツの名称をご存知でしょうか。

2008年に大村研究室を卒業された高橋氏、学生時代にアルバイトをしていた構造設計事務所で、建物のモデル化に多くの時間を費やされていることを経験し、デジタルルーツツールを活用することで業務効率が良くなるのではないかと考えるようになったらしい。まさに働き方改革に直結する思考を、学生の時に既に思い描いておられたとは素晴らしい。

大村 研を卒業後、イギリスに留学（University of East London Architectural and the Visual Arts Diploma Architectural Design）。留学中にも3Dソフトを積極的に勉強し、2010年に中国が本社の株式会社U A A東京に入社され、意匠設計者として勤務。株式会社U A A東京の日本撤退を機に退社され、2012年から株式会社S K企画で積算業務を経験、そして現在勤務の株式会社建築構造研究所の代表であられる大原和之氏と出会い、2014年から構造設計者としての道を歩きだした。

在学時は大村研究室なので、構造系の研究をしたのだろう。それなのに、2008年～2014年までの6年間に、意匠設計・積算業務を経験し、全くことなる分野で活躍していることに驚いた。そしてついに構造設計者に。つまり構造設計者になって9年目。携わった業務の難易度からは想像もつかない。様々なデジタルツールを使いこなし、建物を具現化していく姿に学生達は興味を持ったに違いない。

講義のアンケートにも、「構造系の楽しさがわかった気がした。」「構造設計が面白そうだと感じた。」「大学の授業の内容がどのように実務につながっていくのかをイメージすることができた。」「構造設計は全ての分野と関わることができる楽しい仕事であるということを知ることができた。」「キャリア開発の今までの授業の中で一番びびってきた気がした。」「構造も意匠の一部で、美しさと強さを両立させる重要な仕事だと感じた。」「構造設計に対する私自身の見方が変わった。」他にもたくさん、構造設計に対して好印象である旨の記載があった。

学生からすると固く難しいイメージの構造設計という仕事、構造設計者という働き方をデジタルツールを活用した案件で紹介して頂いた。形態生成と最適化、葉脈の様な天蓋と螺旋階段、ボロノイ分割、聞いていてワクワクしてしまった。

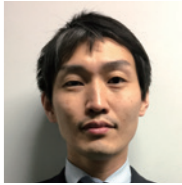
設計段階や現場で生じた問題、そして解決方法、いま大学でしておくべきことなど、高橋さんの経験に基づく活きた話は学生にとっても貴重であったと思う。

## エンジニアリングの日 「PC・PCa・PCaPC」

### 講師 2

今村 雅泰

1999 卒 ピーエス三菱



### レポート 2

新居 仁

1973 卒 新居デザイン・HAD



構造設計は望月先生の授業で力尽きた私がレポーターに相応しいかと思いながら、このレポートを書いている。

建築計画において、設計者は常に要求された空間を自由に作り上げたいと思っている。

構造設計とは、創り上げる空間を構造力学的に持たせるだけの役割ではなく、設計者が目指す事業主要望の空間をいかにして構築するかが構造設計者の役割であり、そこに構造計画の醍醐味がある。武蔵工業大学時代の構造計画の授業で、講師の先生が言われていたことを思い出す。

望月先生の厳しいし指導を踏破し、ピー・エス三菱の者で着実にPC技術を身に付け日本建築学会のみならず、世界に向けての技術発信を続けていることに賞賛を送りたい。

PC技術はドイツをはじめヨーロッパ、アメリカで発展してきた。レゴの模型のように積み上げるだけで建物が出来上がってしまう。第2次大戦後の物資不足人手不足と相まって、建築の工業化が進み日本にも導入されてきた。地震国日本では法的な面や構造解析技術者不足、コスト面で建築界に普及してきたと言いつつも難しいと思っている。そうした中でピー・エス三菱は、PC、PCa、PCaPCと一貫してRC工業化工法にチャレンジしてきた企業として認識している。工場生産品としての品質確保、現場作業の効率化、型枠を使わない省資源化、工期の短縮等少子化社会、環境負荷低減等に対応した技術としての期待は大きい。

設計技術者として実社会の中で生きていくのは多くの経験と新しい知識の吸収を含めた巧断の努力が必要であり、キャリア開発授業の講師たる所以と感じた。設計経験を積み重ねてきた構造設計者からの講義は、説明図と実施例を紹介しても解りやすく学生一人一人の耳に届いたものと確信した。設計者の目指す道はいろいろとあるが、常に新しいものを目指し学生時代に学んだ知識や経験を活かし、人との出会いを大切に何ができるかを模索し、与えられた環境の中で学んでいくことの大切さが伝わってくる。

PCaPC造とS造を組み合わせたハイブリッド構造の設計にも携わっている今村氏が、今後どのような建築空間の設計に携わっていくのか楽しみであり、東京都市大学で近い将来にPC講座が正規の講義として行われるのを待っている。設計に携わる一人として、設計業務とは常にチームワークの作業であり意匠・構造・設備等の各設計者・担当者の名前が、建築雑誌等でいつも出てくるような設計界にしていかなければならないとの思いを付記しておく。

15

キャリア開発



## エンジニアリングの日 「MEP CHANNEL」

### 講師 3

川口 佳子

2006 卒 日建設計



### レポート 3

新居 仁

1973 卒 新居デザイン・HAD

16

「快適環境」を目指して

川口さんは 2008-20117 まで 100 年の伝統を誇るテーテンス設備設計事務所を経て 2017 から日建設計のパート、契約社員、社員とキャリアアップ?されてきた。

今回のレポートを引き受けた理由は、テーテンス事務所を 2006 年引退された葉山氏と建築家クラブを通じて知り合い環境負荷をかけない設備についていろいろと教えていただいたことと、著名建築家との仕事が多く、設計競技で名前が出てくる設備設計事務所としていつも意識していたこともあり、興味をそそられたためである。

このテーテンス事務所での経験を積み重ね、設備設計の基本から実施を学び、コミュニケーション能力を身につけ、設備設計の目指す快適性や合理的なシステムを構築し、建築と融合させてきた姿勢を感じた。

日建設計での仕事は再開発エリアの事務所ビルや、公共施設と建物の規模が大きくなり、地球温暖化に対して環境負荷をかけずにいかに快適環境を設計チームとして実現していくかが命題となる。この中で設計者の一員として認められていくには相当の努力と研鑽が必要であり、資質が問われるものである。これに応えてきた結果が社員として採用にされたことに表れている。

自分の可能性を信じ努力し続けることがまさにキャリアアップの道を開く好例と感じた。建築の設計は意匠、構造、設備、電気等を統合して纏め上げて行くことが必要だ。

地球温暖化の中、如何に環境負荷を減らすかは建築設計における命題であり、設備設計の役割は大きい。子育てに奮闘しながら設計を続けるのは大変なことではあるが、日建設計という大組織設計事務所の環境の中で新たな設備設計の価値観を加え、よりよい快適環境づくりを目指してもらいたい。

学生時代のフィジーでの実体験としての環境への思いに始まり、テーテンスでの人との出会い、設計に参加しまとめていくことの面白さを味わい、実務経験を積み重ねキャリアアップをしてきた。多くの学生が建築を目指していく上での考え方、生き方、学び方のヒントを教えてくれた講義であった。東京都市大学から日本の建築界を牽引するようなモノづくりを目指す設計者になってほしいとの、メッセージが伝わる授業であった。

設備設計の実務経験を積み重ね経過報告を兼ねて、今回のようなとても分かりやすいスケッチを携え、再び母校での講義が行われることを期待したい。

## エンジニアリングの日 討論会

### 司会

三好 敏晴

1998 卒 造研設計

### レポート 4

丹羽 譲治

1973 卒 デザインサークル

構造系 2 名、環境設備系 1 名の講師に加え、司会者が構造系の討論会であった。

A. 設計者との接し方

高橋：まず、コンセプトを聞く。譲れないところを確かめる。

今村：特にアトリエ系の設計者や、著名な建築家は、難しい要望を投げかけてくる。そのため、現状の問題点と解決方法を提案することで実現に近づける。

川口：その空間で人がどのように生活するのか、生活してほしいかを想像する。断面にお互い要素を描きあってイメージを共有する。絵で会話する。

B. 可能性を感じている新技術はあるか、或いは今ある技術で十分なのか。

高橋：ツールを組み合わせ、今あるもので新しいことを生み出す。今村：プレキャスト PC の技術は、過去の作品から高度で繊細ものであった。今後は、BIM や 3D を用いて、新しい技術を提案したい。

川口：現状、建築 BIM を設備 BIM 変換し作業しているが、今後は同一データ上で操作し合うことで、計画の深度化や仕事の効率化が図れるようになると思う。機器、空間、モノにセンサーを取り付け、環境管理できるシステムが今後増えてくると思う。

C. 構造設計者と設備設計者がお互いどう見えているか。

高橋：意匠設計者を介してやりとりをするので直接接した事が無い。お互い譲れないところがある。最初に設備のボリュームを把握できると良い。

川口：総合事務所は、構造設計者が身近で、早い段階から打合わせできる。

三好：設計段階での設備設計との協議が非常に大切、BIM を用いることでより効果的になる。

D. 今後のキャリアビジョンについて

今村：20 代の若手技術者の、キャリアアップを後押しし、技術力を引き上げたい。また、非常勤講師として学術的な分野でも力を生かしたい。高橋：社内のチーム内でデジタルツールを使って家でも会社でも仕事ができる環境にしたい。

川口：去年 10 月に正社員になった。ゴールでなく新しいスタート。できることを増やし、学会活動も復活したい。

E. どんな人材が欲しいか。

高橋：ポジティブな人。まずやってみる。挑戦する気持ちが大事である。今村：技術に対して素直に取り組みたり、フットワークの軽い人が望まれる。

川口：自分に制限をかけずに何でもチャレンジする人。

エンジニアに対する垣根を低くし、学生にエンジニアになろうと思わせた授業であった。

## まちづくりの日 「公務員として携わるまちづくり」

### 講師 1

羽生 晃子

2007 卒 横浜市役所



### レポート 1

新居 仁

1973 卒 新居デザイン・HAD

「街づくりの日々」

住吉研究室を卒業後、武蔵工業大学卒業・講師もされていた長谷川順持デザインオフィスで 2007-2010 務めた後、2010 横浜市役所に入庁され、子育てに奮闘しながら横浜みなとみらい地区の都市整備のルール、運用を実践されている。

建築は『愛』だ『最後に愛がかつ』と武蔵工大時代、計画研究会に入った時、先輩として君臨（いつも静かな語りの論理派）し多義にわたり教えて頂いたのが住吉洋二教授であった。建築学会賞と土木学会賞の 2 つを受賞されている住吉研究室での学業を踏まえ、長谷川順持デザインオフィスで居心地がよく開放性のある住宅設計を学んだ。

個が求める快適さは都市環境の中でも必要であり、公共の立場としてみなとみらい地区での空間構成がバラバラにならないように整理していくことが必要だ。伊勢佐木町の再開発、関内駅前整備、そしてランドマークタワーに代表されるみなとみらい地区の開発整備と、横浜市は着実に全国モデルの都市整備を半世紀以上にわたって行ってきている。

この中での仕事は新たな価値を加えて未来に向かって使い続けられる都市づくりであり、その責任は大きいやりがいのあるという羽生氏の熱い姿勢が感じられる。横浜の持つ歴史的な環境、近代都市としてのポテンシャルを生かし、新たな息吹を加え再構成していく都市づくりに携わること、多くの知識と研鑽が必要だ。学生時代の学びを基礎として、終わりなき都市づくりの世界へ飛び込み活躍している姿にエールを送りたい。

人との出会い、多様な価値観に遭遇し、相互に認めながらのモノづくりを進めていく都市環境づくりがそこにはある。キャリア開発の授業を通して学生たちに、これから建築を目指していく上での考え方、生き方のヒントを教えてくれた講義であった。東京都市大学から多くの学生が建築の様々な分野に目を向け、日本の歴史・文化・環境を見直し、日々の喜びが感じられるような街づくり・モノづくり人になってほしいとのメッセージが伝わってきた。

今後の活躍を期待し、横浜市での現地リアル授業などが東京都市大学としてできないものかと思っている。

## まちづくりの日 「東急のまちづくり」

### 講師 2

打矢 潤市

2000 卒 東急



### レポート 2

丹羽 譲治

1973 卒 デザインサークル

勤務している東急が進めるまちづくりを説明され、ご自身担当のプロジェクトにどう関わったを話された。

入社後、1. 分譲マンション 2. 横浜西口駅前再開発 3. 渋谷駅周辺開発 4. 品川エリア開発を担当してきた。

まちづくりの変遷を 1990 年まで、1990 年以降と 2000 年以降と 3 段階で説明した。それは、権利関係をまとめ、一体開発による土地の有効活用から未利用地と土地インフラを整備へ、さらにまちの課題を抽出し解決する「まちづくり」へと変わってきている。点から面そして立体的に開発する事を意味し、近年では産学官民連携での開発に取り組んでいる。そして、地域の拠点づくり、産学交流の拠点の仕組みづくり、地域交通の導入、イベントを起こして地域の活性化を計り、さらに DX の活用で持続可能なこれからの「まちづくり」へと言及された。東急のまちづくりの歴史の後、たまプラーザテラス、二子玉川ライズ、南町田グランエリーパークから渋谷再開発につて話され、新宿 TOKYU MILANO 再開発計画まで続き、2030 年、2050 年を見据えた "City as a Service" 構想で締めくくった。

最後に ～建築学科の活躍の場～と題して「建物をたてる時」「まちをつくる時」に分けて卒業生がどう関わるかをヒカリエを事例として説明した。学生からの事前質問に答えた。

一何をやっておけば就活に有利か？

まちづくりはさまざまなスキルが必要であるが、建築学科は専門性があるので、差別化できる。一就活時に何を軸にしていたか？

まちづくりディベロッパーを軸にしていた。自己分析に基づいて自分に合った業界を選ぶ。一反対住民に対する対応は？

反対されている方と対話を重ね合意形成に繋ぐ。一大学に通えていない状況において何を考え、どのように行動すべきか？

能動的に情報収集を行い、オンラインのイベントに積極的に参加する。他に多くの質問が寄せられたが、在学中に自分の思いを伝えるスキルを磨くことが重要であると力説した。

司会者の大学院進学のかきかけと良かった事という質問に対して、卒業論文で公共図書館を研究テーマとしてより極めたことでの思いで進学した。良かった事は、他大学との交流と設計事務所でのアルバイトが就職の助走期間になった。

自社寄りであったがディベロッパーの「まちづくり」を理解するのに十分な講義であった。

17

キャリア開発

まちづくりの日 討論会

司会

馬屋原 竜

2011 卒 DAICHI

レポート 3

馬屋原 竜

2011 卒 DAICHI

18

討論会では、在学時代の体験談を皮切りに話が進んだ。より、受講者の立場によりそったキャリア開発ならではの話だったのが印象的だった。

打矢氏は、建築設計会社でのアルバイトを通じての気づきが今のキャリアのきっかけになったと語った。当時は設計・構造・設備など、どう顧客に対して提案するかという視点しかない中、大手デベロッパーのプロジェクトで発注者（クライアント）の立ち位置をすることができた。もっとプロジェクトの源流で幅広い視野・知識をもとに計画を進めることに魅力を感じたとのこと。まさに「まちづくり」にふさわしいきっかけではないだろうか。

羽生氏は、いまでこそ公務員としてのキャリアではあるが在学時には、設計職へ憧れが強かったと話している。卒業設計での手伝いを通して模型作りの楽しさに気づき、自身も卒業設計で卒業をしている。論文も書きたかったと今では思い返すこともあるという。また、専門領域だけではなく、就職・転職に向けて自己分析をしっかりとやればよかったという反省点もあったようだ。在学時から自分の強み・弱みを理解することは社会人でのスタート時に大きな差となるのではないか。

両名の体験談は、受講生にどのように届いただろうか。自身のキャリアを考えるきっかけは日々の中に転がっていることを気づかされたに違いない。そんな座談会で最終日を締めくくった。

懇親会は、当日の講師に加え他の日の講師にも参加いただき7名となった。9月13日は、キャリアデザインに関する講義が教育講師の藤井氏により行われた。藤井氏を含めて12名の講師に登壇頂いたが、実に半数以上が転職をしていて、全てキャリアアップとなっていた。時代を反映していると感じた。

2005年から2019年まで開催してきた「特別講義」をベースに2021年まで面談で行われた特別講義では、飲食を伴う懇親会であり、より打ち解けて行われたように思う。リモートであったが80名の学生が参加したのは講師に恵まれた証と思う。今年のキャリア開発の日程と講師は予定(P10)が組まれており、一向にコロナ感染者が減らない状況であるが、今年は面談で実施されると願いたい。

キャリア開発 懇親会

司会

馬屋原 竜

2011 卒 DAICHI

レポート 4

丹羽 譲治

1973 卒 デザインサークル

A. やる気のない時の対処法?リラクスの方法?

荘司: やる気のない時は帰る。

浅井: 美味しいものを食べるとやる気が出てくる。

小林: 朝やる事を決める。やりたい事、簡単なことから始める。  
川口: 1週間のスケジュールを組み、やる気のない時は打合せを入れて気分を盛り上げる。夕食を作ることで仕事をリセットする。

B. 自信がなくインターンに行くのを躊躇ってしまう。

浅井: 行きたい気持ちがあったら実行する。力になるので能力は気にしない。

荘司: 能力足りないのを知り、自信につながる。

高橋: 構造系の事務所にもきて欲しい。将来へつながる経験となる。

C. 周りの人と自分を比較して落ち込む。

打矢氏: すごい人はどこが凄いか、自分はどこが劣ってるか、自分と差が少ないと気づく。

北嶋: 比べる必要はない。他人を見てすごいなと思うことはあるが、劣っていると感じる必要は無い。

小林: 優秀な同期がいたが、何年もすると様相が変わってくる。この状態が固定されると考えない。

学生へのメッセージ

北嶋: 資格を取得することで優位性があると思うが、それが全てではないので人間性を磨いてほしい。

荘司: 建築以外のことが楽しそうに興味を抱いている。

高橋氏: コロナ禍が収まったらバーチャルで満足せずに、その場所に行って体験して欲しい。

浅井: 意匠設計に進まなくとも、設計を続けた方が良い

川口: 授業をしっかりと受ける。卒業設計をやればよかったと思ってる。

小林: 大学の偏差値は関係なく、入学時がゼロスタートで学生時代にいかにレベルアップするかが大事である。

藤井: 学生時代に基礎を身につけ、社会に出てから互いの仕事を理解できるようにして10年後、20年後にこの場に戻ってきてバトンを繋いで欲しい。

北嶋氏: 建築の道へ進むか迷っている学生は気軽に連絡して欲しい。考え次第で建築の知識は他の分野で活かせるし、求められていると思う。

北嶋氏の発言は、自分が建築に適性が無いと感じている学生に対して良い働きかけであると思った。私自身も卒業後工業デザイン事務所に12年間勤務した事がキャリア形成に重要な役割を果たしている。建築を学んだことが仕事の領域を広げるのに役立と考えている。

## 進路ガイダンス

## Report

主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会

共催：東京都市大学建築学科

特別協賛：日建学院・建築資料研究社

進路ガイダンス部会長

斎藤 博

1969 卒



〈進路ガイダンス部会 2022 年度活動方針〉

◆前提：

1：今後のコロナの収束状況により「対面ガイダンス「WEBガイダンス」のいずれを選択するかを決定したい。

2：「コロナ・クラスターへの危惧」「開催場所のコロナ対策可能性の可否」等慎重に判断し「可能な限り対面による進路ガイダンス」を選択していきたいと考える。

——対面型進路ガイダンスは主催者（如学会メンバー）や参加企業の本校卒業生が学生個々の様子・就活方針に合わせた「参加企業の紹介」が可能となり、進路ガイダンス会場の一体感がガイダンス効果を高める。

——進路ガイダンス後の「本校卒業生と学生」との懇親会が「学生にとって先輩たちと親しく交流し、ガイダンスの場では聞けなかったことを聞くことができ」「名刺交換等今後のコンタクトの情報を得ることができる」ことから、学生にとって大きな魅力となる。

◆進路ガイダンス / 前・後期の2回開催の継承

1：基本的にこれまで同様に「前期進路ガイダンス / ジャンル別仕事紹介」「後期進路ガイダンス / 全企業のガイダンステーブル（対面の場合）またはブレイクアウトルーム（WEBの場合）にて本校卒業生との直接対話・交流の場を形成する」の2回に分けて開催する方針としたい。

——ただしこの2年、Webによる「前期 / 8月の研究室決定に先立ち6月開催」「後期 / 10月に2回に分けて開催」としてきたが就活の前倒し化が進む中「どのタイミングで開催することがガイダンス効果に貢献するか」を慎重に検討し開催時期を決定したい。

〈2021 年進路ガイダンス成果〉

前期進路ガイダンス（業種別仕事紹介）

2021 年 6 月 19 日（水）14:00 ～ 16:40

後期進路ガイダンス・準備会

2021 年 8 月 25 日（水）19:00 ～ 21:00

後期進路ガイダンス（企業別仕事紹介）

第 1 回後期進路ガイダンス

2021 年 10 月 13 日（水）14:30 ～ 17:00

第 2 回後期進路ガイダンス

2021 年 10 月 20 日（水）14:30 ～ 17:00

〈2021 年後期進路ガイダンス / 実施報告〉

◆後期進路ガイダンスを下記要領で開催いたしました。

昨年に引き続きまして、本年も10月13日（水）及び10月20日（水）の2回に分けて「後期進路ガイダンス」を開催いたしました。本年もリモートによる開催となり「ZOOM ミーティング / ブレイクアウトルーム」を活用し、対面交流に近いガイダンス効果が生み出せるよう工夫いたしました。

「後期進路ガイダンス」開催要領

□開催日：第 1 回目 :2021 年 10 月 13 日（水）14:30 ～ 17:00

第 2 回目 :2021 年 10 月 20 日（水）14:30 ～ 17:00

※「ブレイクアウトルーム」の人数制限があり参加企業の皆様のご都合に合わせて三日に分けて登録させていただきました。

□進路ガイダンスの方式

1: 「ZOOM ミーティング」| こよる。

2: 「参加企業ごとのブレイクアウトルーム」を設け制限時間 20 分ごとに計 4 回移動し企業ガイダンスを行う。

◆結果は別表の通り参加企業 /13 日 46 社、20 日 49 社でこのうち 21 社が両日参加くださいました。参加企業数は 73 社となります。参加学生は事前エントリー表によりますが 13 日 88 人、20 日 93 人でした。

◆総論

・参加企業の皆様からのアンケートによりますと、コロナ禍禍学生との密な対話ができたと高く評価いただきましたが、今回企業数に比して参加学生数が少な く途中退場する学生もあり今後の学生動員への工夫が求められました。

・学生からは普段インターンシップ等では聞きにくいことも質問できたとの好感触な意見が多く寄せられたが、ブレイクアウトルームでのコミュニケーションに戸惑つたとの意見もあり「対面でのガイダンス」を期待する声も寄せられました。

◆2022 年度は是非「旧来の対面式ガイダンス」の実現を期待したいと思います。

19

進路ガイダンス

# 「前期進路ガイダンス 2021」 6月16日(水) 開催

## 進路支援プログラム

□実施日時：2021年6月16日(水) 14時より

□開催方式：Zoom ウェビナーにより開催

□開催の主旨：

- 1：これから「研究室」を決める学生の皆様が「進路」を考える指針として「OB・OGによる業種別魅力紹介」のプレゼンテーションを実施しました。
- 2：業種を代表して14人の講師がプレゼンテーションを行いました。
- 3：プレゼンテーション内容は所属する「業種・業界」の紹介と「自分が会社に就職してからこれまでに得た“人生を通してのキャリア”」等です。
- 4：後期進路ガイダンス(企業別仕事紹介)を10月13日(水)、20日(水)に開催しました。  
この2日間は、昨年と同様にオンライン(Zoom・ブレイクアウトルーム機能)で行いました。
- 5：如学会ホームページに「OB/OG 訪問対応窓口の氏名・連絡先」を掲示しました。

### 【業種別仕事紹介・講師リスト】 (6/5時点での決定者のみ所属と氏名を記載)

開催趣旨説明の後、以下の業種について14名の講師の方々にご用意いただいた動画を配信しました。

	[業種名]	[企業名]	[担当者(卒業年)]
1	官公庁等	川崎市	齋藤史人(H25)
2	アトリエ系設計事務所	アーキビジョン広谷スタジオ	石田有作(H04)
3	エンジニアリング系設計事務所	宮坂設計	宮坂智信(H09)
4	組織設計事務所	東畑建築事務所	辻村典子(H18)
5	組織設計事務所	三菱地所設計	江口祥平(H19)
6	総合建設会社(準大手、構造設計)	五洋建設	桑原 健(H29)
7	総合建設会社(中堅、施工管理)	大本組	石川宣文(H07)
8	環境・設備関連	須賀工業	齋藤大輔(H29)
9	住環境関連	大東建託	伊藤達彦(H25)
10	住環境関連	東京組	柿崎光(H25)
11	インテリア・ディスプレイ	ディー・サイン	沼尾知哉(H22)
12	技術・材料関連	ノザワ	泉山一弘(H06)
13	鉄道・不動産・テナビロップ-関連	森ビル	弓削昌義(S57)
14	海外留学・海外就職	スイス留学	根市 拓(H26)

如学会・前期進路ガイダンス2021



### 【参加登録手順】以下の手順で実施しました。

参加には、事前に参加登録が必要です。参加登録手順を以下に示します。

- ① ご自身で下記 URL より参加登録を行う。(スマホでも登録可能)  
<https://jogakkai.jp/entry-guidance2021-1/>
- ② ご登録直後、入力されたメールアドレスに確認メールが送信される。
- ③ 6月14日(月)までに前期進路ガイダンスに参加するための ZOOM・個別 URL が記載されたメール配信される。

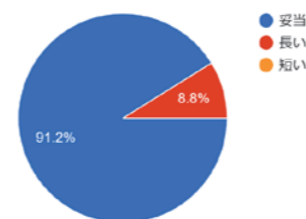
なお、開催前日になっても URL が届かない場合は、

お問い合わせ先：[guidance2021@jogakkai.jp](mailto:guidance2021@jogakkai.jp)

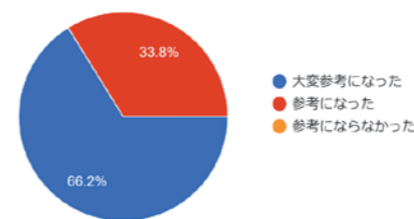
にメール願います。

### 〈2021年 前期進路ガイダンス / 参加者アンケート結果〉

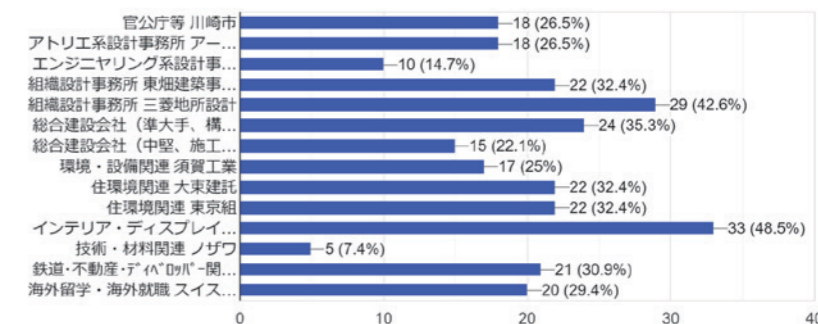
Q1. 開催時間は?  
68件の回答



Q2. 前期進路ガイダンス2021は?  
68件の回答



Q3. 興味を持った職種は? (複数回答可)  
68件の回答



### 〈2021年 前期進路ガイダンス参加者アンケート〉

■実際に働いている卒業生の方々のお話を聞くことで、それぞれの職種についてや就職に至るまでの考えや流れについても知ることができて、とてもためになった。どの職種にもそれぞれの良さがあり、なかなか定めることが難しいが、今回のガイダンスを元に自分の将来についてさらに考えたいと思った。(学部3)

■建築業界の全体像を知ることができ、少し不安が晴れた。(学部3)

■多くの企業の話が聞けたことで自分の視野が広がりました。(学部3)

■今回このような場を設けていただき有り難うございました。スタッフの皆様ありがとうございました。この機会を生かして就活をしていきます。まだ企業研究の段階ですがインターンなどに申し込みたいと考えております。(学部3)

■企業の具体的な業務の内容やその人の志望動機を知ることができ、とても貴重な機会でした。(院生)

■就職に関して自分の行きたい分野も定まっていなかったが、今回のガイダンスによって少し興味が湧いたものもあり、今後の就活に生かすことができそうな気がしてよかった。(学部3)

■自分の中で選択肢を広げるというのは大変なので、こういった様々な業界を知る機会はとてもありがたいです。ありがとうございました。(学部3)

■就職のことばかり考えていたが、留学して海外の建築を学ぶという選択肢もあったのだと気づかされ、少し興味がわきました。聞けば聞くほどどの分野もやりがいがあり、ますます迷いました。自分に一番向いているのは何なのかはっきり考えていこうと思いました。(学部3)

■就職というものがよくわからない状況でしたが、先輩方のお話を聞いて色々な選択肢があると思った。また自分はどうなことを仕事してみたいのかイメージが湧いた。2年後に自分のやりたい選択ができるように努力を続けていきたい。ありがとうございました。(学部1)

■OBの方の大学での専攻内容や就職先の志望理由を参考にしながらその会社における実績ややりがいを知ることができて自分がどういった職種に関わりたいかや働くにあたって感じたいと思うやりがいや信念のイメージがガイダンス前より膨らみました。貴重な場を設けて頂きありがとうございました。(学部3)

■学部1年ですが、様々な分野の話を知ることができ、大変意義のある時間でした。今回は質疑応答の時間がなかったことが残念ですが、後期に開催される予定のガイダンスでは、そのような時間があると伺いましたので、ぜひ参加をしたいと思います。まだ入学したばかりで、どうしても「建築の仕事＝設計(とりわけ意匠)」となりがちでしたが、今回は少し視野が広がったかなと思います。自分でも調査をして、後期のガイダンスを迎えたいなと思いました。どうもありがとうございました。(学部1)

## 「後期進路ガイダンス2021」開催 進路支援プログラム

□ 実施日時：1日目 2021年10月13日 [水] 14:30~17:00  
2日目 2021年10月20日 [水] 14:30~17:00

□ 場 所：オンライン (zoom)

□ 開催主旨：

6月16日に業界研究を目的とした「前期進路ガイダンス」をオンラインで開催しました。研究室を決める時期に「OB/OG 手作りの業界別仕事紹介」を聞くことは、自らのキャリアデザインへの選択や、人生設計・自己適正や資質の分析等を行ううえで、大いに参考になったことと思います。10月の「後期進路ガイダンス」は、OB・OGに直接相談に乗ってもらえる企業研究の場です。コロナ禍のため、今回もオンラインで対面の場を設けました。

第1部	開催あいさつ、注意事項説明 14:30~14:50	
第2部	企業別仕事紹介 15:00~17:00 (20分×4回)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレイクアウトルーム(企業ごとのルーム)で、OB/OGと直接対話ができます。</li> <li>・企業のリアルな実態など、合説では聞きにくい話を引き出してみましょう。</li> <li>・いろんなOB/OGと話してみましょう(幅広く企業の話聞くことを推奨します)。</li> </ul>	
	参加企業	2021年度参加社-52社 (五十音順)
	1日目参加企業(10月13日)	2日目参加企業(10月20日)
官公庁等	川崎市役所	川崎市役所、横浜市役所
アトリエ設計事務所		三上建築事務所
エンジニアリング設計事務所	造研設計	造研設計
組織設計事務所	東畑建築事務所、日建設計、日本設計、松田平田設計、三菱地所設計、安井建築設計事務所、山下設計	石本建築事務所、NTTファシリティーズ、東急設計コンサルタント、東畑建築事務所、ビーディシステム、安井建築設計事務所
総合建設会社	奥村組、鹿島建設、五洋建設、佐藤工業、清水建設、大成建設、大成ユーレック、大和ハウス工業、高松建設、東洋建設、戸田建設、巴コーポレーション、長谷萬	安藤・間、大本組、清水建設、高松建設、竹中工務店、鉄建建設、東急建設、東洋建設、巴コーポレーション、長谷萬、ビーエス三菱、三井住友建設
環境・設備関連	新菱冷熱工業、須賀工業、大気社、東洋熱工業、	新菱冷熱工業、須賀工業、東洋熱工業
ハウスメーカー	アキュラホーム	
インテリア・ディスプレイ	ディー・サイン、東急Re・デザイン	ジーク、三越伊勢丹プロパティデザイン
技術・材料関連	旭ビルウォール、ノザワ	ノザワ
鉄道・不動産・デバイス・IT関連	伊藤忠アーバンコミュニティ、ジェイアール東日本都市開発、森ビル	東急、成田国際空港
マスメディア・情報関連	トランスコスモス、	トランスコスモス、
その他	TAK-QS(建築積算)、	TAK-QS(建築積算)、総合資格、日本管財(サービス業)
第3部	女性卒業生との座談会 16:15~17:00	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築の世界で活躍するOGと直接対話しつながることができます。</li> <li>・女性ならではの仕事の悩みや、発揮できる能力などを聞いてみましょう。</li> <li>・ライフイベントとの両立など、将来への不安についても質問してみましょう。</li> </ul>	

【学生各位】「後期進路ガイダンス2021」参加登録申し込み URL：  
<https://form.jogakkai.jp/guidance2021-2-personal-apply>

如学会後期進路ガイダンス

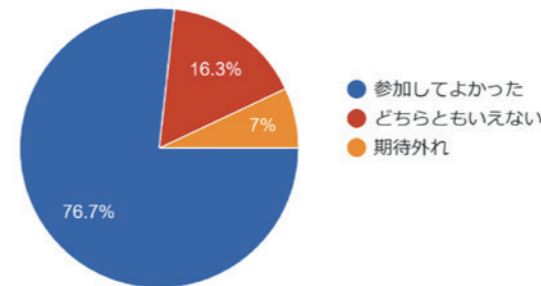


(2021/9/26 現在)

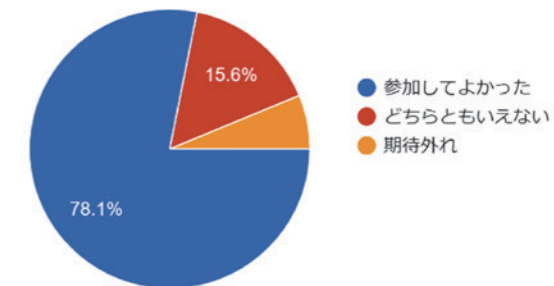
〈2021年 後期進路ガイダンス / 参加者アンケート結果〉

参加企業アンケート

Q1. 今回の進路ガイダンスについて  
43件の回答

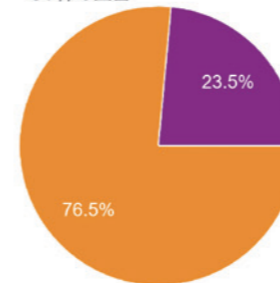


Q1. 今回の進路ガイダンスについて  
32件の回答

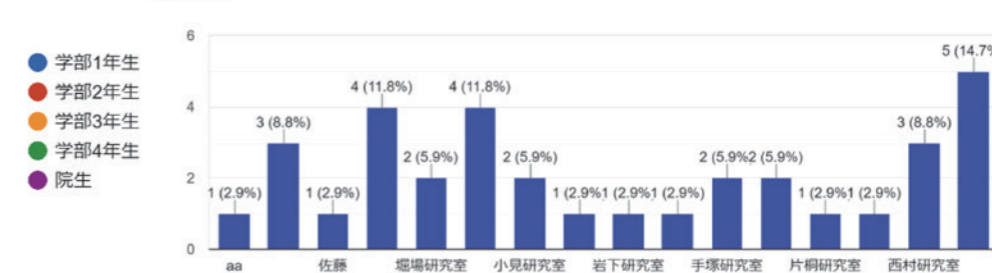


参加学生アンケート

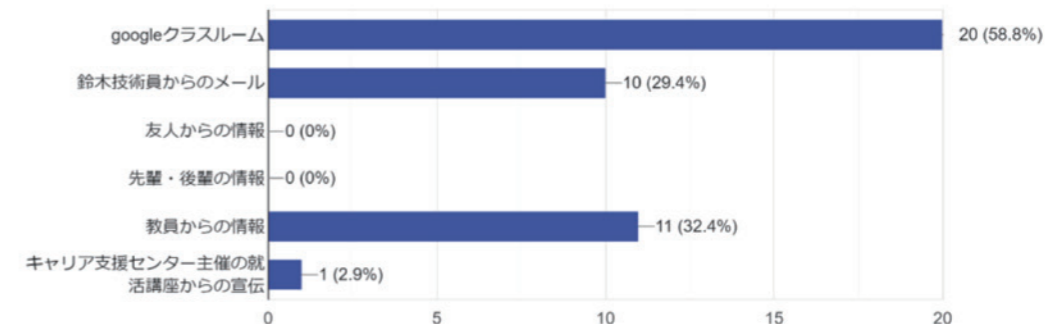
所属・学年/10月13日  
34件の回答



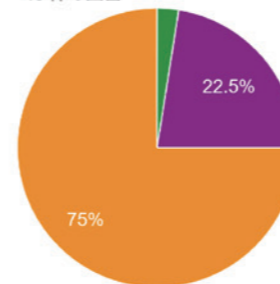
所属研究室  
34件の回答



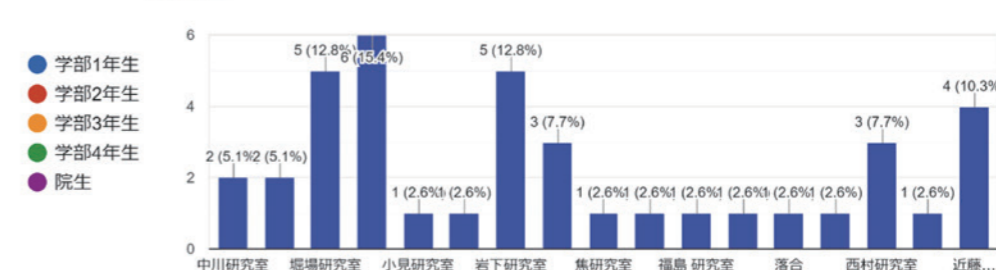
Q1. この行事を最初に知ったのは?  
34件の回答



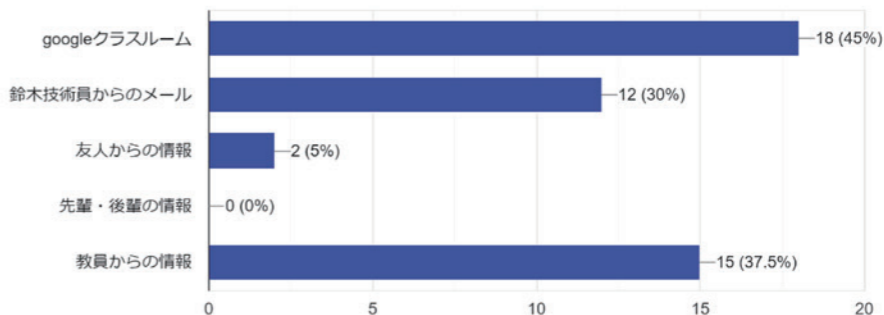
所属・学年/10月20日  
40件の回答



所属研究室  
39件の回答



Q1. この行事を最初に知ったのは?  
40件の回答



# 建築 100 人展 2021 浅草展・VR 展

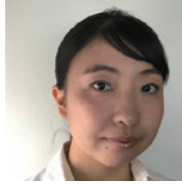
## Report

主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会 共催：東京都市大学建築学科  
後援：東京都市大学同窓会・校友会（校友会 10 周年記念事業として）  
特別協賛：総合資格

建築 100 人展委員長

浅井 百合

2007 卒 浅井アーキテクト



2021 年 12 月、建築 100 人展は 3 年ぶりの復活となりました。今年度は大学学祭がオンライン開催となったことから大学展を中止し、浅草展のみの開催となりました。また、コロナ禍でリアル会場の閉鎖も常に懸念される中、どのような状況になっても開催できるよう VR 展を同時企画しました。WEB 上で PDF 等のみの展示会も検討に上がりましたが、実際に展示物が集まり場を作ること自体を大切にしたいという思いから、ウォークスルーで会場を巡ることができる VR 形式とさせていただき、会場の雰囲気を感じられる計画を目指しました。

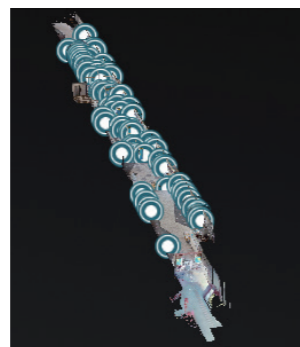


展示空間中央では木製展示台とともにコーナー展示を行いました

会場は浅草の隅田公園バーサイドギャラリー。  
会期は 12 月 4 日(土)～12 日(日)の 9 日間の開催でした。



2018 年と同じく、浅草の川沿いにある約 700㎡の隅田公園リバーサイドギャラリーで開催しました。見学者は建築関係者をはじめ、地元の方、観光客も立ち寄っていただき、199 人（関係者・出展者除く）の来館者となりました。



### VR 展を開催しました

会場に来れない方にも展示と会場の雰囲気を感じていただける機会を設けるため、VR 展を行いました。360 度撮影画像とコンテンツの埋め込みにより、google map のストリートビューのようにバーチャル会場をめぐりながら展示をご覧いただけるようにしました。会期直後から 1 月 31 日まで公開しました。計画・撮影を小見研究室にサポートいただき、編集チームの努力で実現しました。



右手前に落合研究室の木質シェル 1/2 モックアップ、奥に手塚先生作品

撮影：露木沙弥香

### 「HOUSING」展、「SHOP」展、「EDUCATION」展

世代や研究室、関わり方を超えて、共通のコーナー展示を行いたいという声から、「HOUSING」、「SHOP」、「EDUCATION」という 3 つの部門にエントリーいただき、展示を行いました。

サイン計画は石川朔美氏（松田平田設計 / 2021 修了）、木製展示台は 2018 年展示時に使用したもので、設計は丹羽譲治氏（デザインサークル / 1973 卒業）、鈴木亨氏（鈴木工務店 / 1971 卒業）によりキット作成いただいたものを用いました。

### QR コード動画展示

直接会って交流することができなくても、その建築に携わった人の説明が「聞ける」ようにしました。

作品の解説動画等を出展者の方にお送りいただき、QR コードで作品銘板につけることで、会場をめぐりながら携帯で動画説明を見られるようにしました。

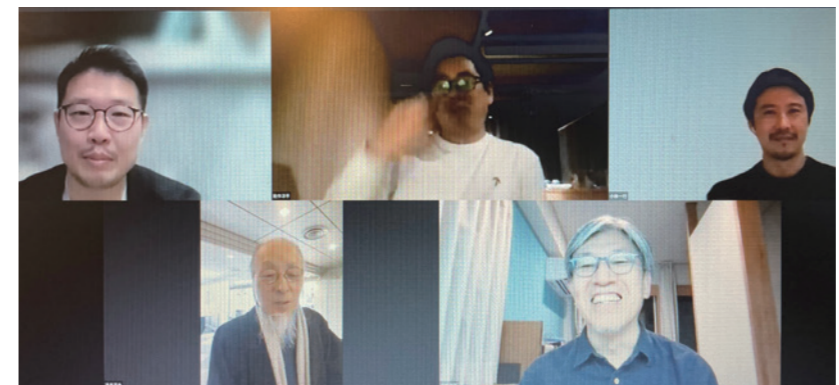


### 研究室展示

落合研究室に参加いただき、木質シェル 1/2 モックアップの展示が行われました。

### 学生作品展

昨年の蔵田賞、学内、学外で賞を受賞した学生作品と、学生如学会「構造デザイン研究会」の研究会内コンペの展示が行われました。



### 青年委員会とコラボ企画

オンラインイベント「若手卒業生の今とこれから」を開催しました。12 月 4 日(土)、6 名の登壇者とディスカッションモデレーター：栗田祥弘氏、司会：青年委員会委員長中田理恵氏によるオンライントークイベントを行いました。約 60 名、多世代から参加者が集まりました。

建築ジャーナリスト 淵上正幸氏講演「現代世界建築を展望する -6」を開催しました。



## 出展者の方々 受付順・敬称略

今回、出展者 66 名、学生 84 名、1 研究室の参加となりました。出展者の皆様にはご多忙中にも関わらず、例年と異なるコロナ禍でのレギュレーションにもご対応いただき、誠にありがとうございました。試行錯誤の部分も多く、ご不便を多々おかけしたことをお詫びさせていただきます。ご出展いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

三田 知男 / 1990 卒業 / 山下設計  
太田 健裕 / 2011 修了 / 太田設計舎  
窪田 長久 / 2009 卒業 / Delicious Pairings  
鈴木 亨 / 1971 卒業 / 鈴木工務店  
浅石 優 / 1970 卒業 / フリーランス  
八木 雅之 / 2007 卒業 / 八木建設  
高屋 利行 / 1977 卒業 / 高屋設計 環境デザインルーム  
久保 隆文 / 2001 電気工学専攻修了 / Mantle  
齋藤 真一郎 / 1997 卒業 / 齋藤建築設計事務所  
奥津 孝一 / 1978 卒業 / 設計センター  
廣谷 純子 / 1995 卒業 / みっつデザイン研究所  
手塚 貴晴 / 1987 卒業 / 手塚建築研究所  
手塚 由比 / 1992 卒業 / 手塚建築研究所  
瀬下 耕司 / 1983 卒業 / 鉄建建設  
十河 彰 / 2004 卒業 / SOGO 建築設計  
十河 麻美 / 2004 卒業 / SOGO 建築設計  
荒尾 拓司 / 1983 卒業 / 飛鳥建設  
長谷 秀人 / 2015 卒業 / 東畑建築事務所  
根市 拓 / 2014 卒業 / Ishimura+Neichi  
矢野 和之 / 1969 卒業 / 文化財保存計画協会  
岡本 啓吾 / 2019 修了 / 安井建築設計事務所  
泉山 一弘 / 1994 卒業 / ノザワ  
益子 一彦 / 1983 卒業 / 三上建築事務所  
田中 祐太 / 2001 卒業 / 三上建築事務所  
松本 悟志 / 2013 卒業 / 三上建築事務所  
齋藤 勝弥 / 2014 卒業 / 三上建築事務所  
佐藤 拓朗 / 2015 卒業 / 三上建築事務所  
川又 祐介 / 2015 卒業 / 三上建築事務所  
高麗 夏美 / 2016 卒業 / 三上建築事務所  
小林 捨象 / 1979 卒業 / 捨象設計ランドスケープ  
舟岡 努 / 1977 卒業 / 舟岡技術士事務所  
眞田 大輔 / 1998 卒業 / SUWA | すわ製作所  
清水 豪輝 / 2007 卒業 / 清水豪輝建築設計事務所  
浅井 百合 / 2007 卒業 / 浅井アーキテクト  
原田 聡 / 1985 卒業 / 山下設計  
酒井 孝博 / 1996 卒業 / サンケイビルテクノ  
柏木 穂波 / 1990 卒業 / カシワギ・スイ・アソシエイツ  
福島 加津也 / 1990 卒業 / 福島加津也+富永祥子建築設計事務所  
齋藤 博 / 1969 卒業 / S・アーバンプランニング  
戸田 千春 / 2016 修了 / 戸田建設  
石田 有作 / 1994 修了 / アーキヴィジョン広谷スタジオ  
富川 浩史 / 2001 修了 / 富川浩史建築設計事務所  
栗田 祥弘 / 1998 卒業 / 栗田祥弘建築都市研究所  
渋谷 篤 / 2001 修了 / 日建ハウジングシステム  
加藤 比呂史 / 2004 卒業 / KANA LLC.  
荘司 麻人 / 2010 卒業 / SUPPOSE DESIGN OFFICE  
丹羽 譲治 / 1973 卒業 / デザインサークル  
岩崎 堅一 / 1962 卒業 / 岩崎建築研究室  
小林 一行 / 2006 卒業 / テレインアーキテクト / TERRAIN architects

山崎 誠子 / 1984 卒業 / GA ヤマザキ  
堀場 弘 / 1983 卒業 / シーラカンス K & H  
前芝 優也 / 2019 修了 / 栗田祥弘建築都市研究所  
相邑 美佐江 / 1981 卒業 / ナウミスペース  
山極 裕史 / 1984 卒業 / 三菱地所設計  
新居 千秋 / 1971 卒業 / 新居千秋都市建築設計  
三好 敏晴 / 1998 卒業 / 造研設計  
白岩 且久 / 1974 土木学科卒業 / 白岩工務所  
山岡 嘉彌 / 1971 卒業 / 山岡嘉彌デザイン事務所  
植谷 英子 / 2002 卒業 / 山岡嘉彌デザイン事務所  
吉田 勝・衣斐喜美子・加藤祐子・川辺加代子・小杉雅克・後藤田栄司・中楚豊・船越一恵・増田晶・吉田勝 (1968 卒業 / PAO 設計)・渡辺直美  
成島 奨 / 2009 卒業 / PAO 設計  
中田 理恵 / 2006 卒業 / 中田製作所  
中田 裕一 / 2006 卒業 / 中田製作所  
阿部 寧 / 1963 卒業 / NPO 法人建築・街づくり支援センター、階段システム研究所  
落合 陽・落合研究室の皆様  
学生展示  
岸 晃輔 修士 2 年 / 中野 慶仁 修士 1 年 / 薄井 実乃里 学部 3 年 / 朝長 優斗 学部 3 年 / 大橋 侑莉 学部 2 年 / 田中 水都 学部 2 年 / 大塚 史奈 学部 2 年 / 佐藤 優希 学部 2 年 / 喜井 雅治 学部 2 年 / 谷々 芽生 学部 2 年  
学生如学会 構造デザイン研究会  
1 班 / 佐藤 優希 / 澤野 真遼 / 田中 水都 / 秋葉 桜子 / 石橋 茉紘 / 岩本 寿美 / 大間 菜摘 / 清水 まこ / 鈴木 遥風 / 三浦 考佑  
2 班 / 倉田 萌花 / 西柚 乃花 / 石川 智也 / 内田 朋希 / 渋谷 耕世 / 武田 美海 / 牧野 友哉 / 松岡 昂 / 森田 悠丞 / 森 雄仁  
3 班 / 上野 辰太郎 / 谷口 海斗 / 石川 奈津実 / 鈴木 賢一朗 / 珍田 彩羽 / 野本 尚利 / 堀 光希 / 安江 将輝 / 和田 親 / 渡辺 花鈴  
4 班 / 荒井 空良人 / 喜井 雅治 / 井上 桃香 / 大槌 晃 / 奥島 千晶 / 塩田 悠斗 / 庄司 唯人 / 水谷 優杏 / 宮地 愛美 / 森屋 美海 / 湯本 真由  
5 班 / 鈴木 希悠 / 皆川 瑠菜 / 渡邊 匠 / 荒井 瑠音 / 稲村 雪 / 氏家 環 / 千田 楓 / 中山 実咲 / 武藤 航一郎 / 宮崎 翔太 / 山本 時生  
6 班 / 小笠原 広翔 / 芝田 諒 / 高田 大樹 / 大場 礼士 / 香取 洸太 / カミア 美衣奈 / 齋藤 亜衣 / 嶋田 舞 / 清水 心美 / 轟 菜帆 / 花野 智紀  
7 班 / 加藤 恭兵 / 向原 大貴 / 横山 源太郎 / 大谷 祐貴 / 大友 ゆかり / 佐藤 優太 / 千葉 倫太郎 / 辻 楓乃 / 名取 皓 / 横山 絢乃 / 四辻 響太



## 建築 100 人展委員会・青年委員会合同企画 オンラインイベント

### 「若手卒業生の今とこれから」

建築 100 人展初日である 12 月 4 日（土）、トークイベントをオンラインで開催しました。多岐にわたる職種の方々をお迎えし、近い世代のクロストークによって、各世代が「これから」を考える場として、20 代、30 代、40 代の卒業生に登壇いただきました。前半 3 名、後半 3 名に分かれ、それぞれ近作と学生時代の振り返りのプレゼンテーションを行い、ディスカッションモデレーターと共にトークセッションを行っていただきました。

#### [登壇者]

テレインアーキテクト / TERRAIN architects **小林 一行**  
1981 年生まれ。武蔵工業大学（現東京都市大学）在学中にウガンダへ留学。2006 年東京藝術大学大学院に進学し在学中に吉田五十八奨学金を受けマリ・ドゴン族の集落に滞在し調査を行う。修了後、藤木隆男建築研究所を経て 2011 年 TERRAIN architects(テレインアーキテクト)を櫻村実美と共同設立。



kenma Inc./ 333architects Inc. **高橋 良弘**  
1983 年東京都生まれ / 武蔵工業大学大学院 岩崎建築研究室 修士課程修了 / 2007 ~ 19 年山下設計勤務 / 2019 年 kenma 入社 / 2020 年より 333architects に参画。代表作：黒部市庁舎（山下設計）、リードシー恵比寿ビル (kenma)、IsechoNEST(333architects) 受賞歴：中部建築賞、グッドデザイン賞、第 9 回大東建託賃貸住宅コンペ新たな賃貸スタイル部門審査委員特別賞受賞、JIA 優秀建築選 2020



ノウサクジュンペイアーキテクト、富士見台トンネル **能作 淳平**  
1983 年富山県生まれの建築家。2010 年よりノウサクジュンペイアーキテクト主催。故郷の高岡で手がけた「高岡のゲストハウス」で第 15 回ヴェネチアビエンナーレ国際建築展にて審査員特別賞受賞。長崎県五島列島の改修プロジェクト「さんごさん」に参加。2019 年より国立市の富士見台団地商店街にてシェアする商店「富士見台トンネル」をスタート。現在、東京理科大学、芝浦工業大学、東京都市大学、東京電機大学、昭和女子大学の非常勤講師。



栗田祥弘建築都市研究所 **栗田 祥弘**  
1998 年卒 (手塚研究室) DRFTWD OFFICE, Amsterdam (オランダ) に 3 年間所属隈研吾建築都市設計事務所に 9 年間所属の後、栗田祥弘建築都市研究所設立 (nextstations 共同主宰、一般社団法人まちづくりサポートチーム代表理事) 主な受賞歴として土木学会デザイン賞最優秀賞、国際プルネル賞 Award、グッドデザイン賞中小企業長官賞、都市景観大賞観まちづくり活動・教育部門優秀賞他



このコロナ禍のなか、建築 100 人展に参加および制作に携わって頂いたみなさまには大変感謝申し上げます。今回は新企画として第一線で活躍する若手卒業生のトークイベントを開催できました。学生や新社会人はより自分の延長線上の姿として感じ、諸先輩方は新しい卒業生の活躍が見れる良い場になったかと思えます。今後もこのような場を作っていけたらと思います。(栗田祥弘 / H10 年卒業)



戸田建設株式会社 開発営業推進室 開発計画部 **戸田 千春**  
2010 年東京都市大学 入学、2016 年 同大学大学院卒業。在学中は勝又教授に師事。2016 年戸田建設株式会社入社、一年の現場研修を経て、現 開発計画部に本配属。



株式会社 DAICHI 旧姓：川上 竜 **馬屋原 竜**  
1988 年新潟県佐渡島生まれ。大学進学までを島で過ごす。大学院修了後、(株)ディー・サインにて経営陣 / 社員を巻き込んだワークプレイス構築に従事。前職時代には、プロジェクトマネージャーとして国内国外問わず多くの企業案件に携わり、日経ニューオフィス賞など数多くの賞を受賞。また、キャンプをライフワークとし、日本全国のフィールドを駆け巡っている。2021 年に株式会社 DAICHI を起業し、代表取締役役に就任。



Ishimura+Neichi **根市 拓**  
1991 年神奈川県生まれ。2014 年に東京都市大学建築学科卒業後、Miller & Maranta Architekten での勤務を経て、2017 年にメンドリシオ建築アカデミー修士課程修了。同年に Ishimura+Neichi を設立。2021 年より関東学院大学建築・環境学科非常勤講師。スイス連邦建築家協会登録建築士 (SIA) 及び一級建築士。



#### [司会]

中田製作所 **中田 理恵**  
1983 年神奈川県生まれ。2006 年武蔵工業大学 建築学科卒業。2008 年首都大学東京 大学院建築学専攻修了。2008-13 年日建設計勤務。2013 年 - 中田製作所。2013 年 SD レビュー入選。



対面での交流が難しくなってしまった昨今ですが、同世代の活躍を知れる貴重な場となりました。ご登壇頂いた皆様、モデレーターの栗田さん、ありがとうございました。

# 「現代世界建築を展望する -6」

## Report

### 建築ジャーナリスト 淵上 正幸氏 講演

建築 100 人展最終日である 12 月 12 日（日）、建築ジャーナリスト 淵上正幸氏による講演がオンライン公開と現地のハイブリットイベントとして行われました。世界を巡り建築を直接体験する機会が制限される中、淵上氏はこれまで実際に見てこられた世界のトップレベルの建築、そのアーキテクトとの対話についてお話いただきました。



撮影：露木沙弥香

淵上正幸 /Masayuki Fuchigami 建築ジャーナリスト (株)シネクティックス主宰

2018 年日本建築学会文化賞受賞。海外建築家との情報交換により、執筆、講演、インタビュー、海外建築ツアー等を手掛ける。主著に『世界の建築家 51 人：思想と作品』、『ヨーロッパ建築案内 1-3』、『もっと知りたい建築家：アーキテクト訪問記』、『アメリカ建築案内 1-2』、『世界の建築家 51 人：コンセプトと作品』、『建築家をめざして』、『アーキテクト・スケッチ・ワークス 1-3』、『建築手帳 2020』など。



全ての撮影：露木沙弥香

日刊建設工業新聞 2021 年 12 月 7 日 掲載

**VR 展示を初採用**  
東京都立大学  
の建築 100 人展  
東京都立大学建築学科の同窓会「如学会」(小林秀慶会長)が主催し、同建築学科の共催、同大同窓会・校友会が後援する第 14 回「建築 100 人展 2021・浅草展」が東京都台東区の隅田公園リバーサイドギャラリーで 12 日まで開かれている。写真  
水害や新型コロナウイルスの影響で 2 年連続で開催中止となった状況を乗り越え、3 年ぶりの開催となった今回、大学祭が中止・オンライン開催となった関係で、大学祭を取りやめ、浅草展のみ開催とした。さらに新型コロナウイルスの影響を踏まえ、11 日から 12 月 22 日までの間、浅草展の模様をネット上で見学

できる VR (仮想現実) 展示を初採用  
「作品が集まったこの空間を大切にしたい」(浅井百合、建築 100 人展実行委員長)との思いから、来場した学生、生だけでなく、構造や照明デザイン、セネコン、メーカーなどで動く人のさまざまな作品を展示している。さらに今回、優秀な成果を取った学生の作品の数々も展示した。これだけの学生の展示は初めて」(丹羽謙治如学会事務局長)だとしている。  
会場では一部の作品に QR コードを設け、それを読み込むと作品を手掛けた本人の動画が表れ、作品にかけた思いなどを聞くことができる試みも今回から始めた。オンラインイベントも新たに企画し、4 日に「若手卒業生の今とこれから」をテーマにディスカッションしたほか、12 日にはオンラインと浅草展の両方を「現代世界建築を展望する -6」を予定している。講演への参加には予約が必要。

建設通信新聞 2021 年 12 月 10 日 2 面 掲載



卒業生らの活躍をパネルや模型で紹介

**12 日まで建築 100 人展**  
東京都立大学建築学科の同窓会「如学会」が、卒業生の活動を紹介する「建築 100 人展 2021 浅草展」を東京都台東区の隅田公園リバーサイドギャラリーで開いている。卒業生や在校生、教員がパネルや模型などを出展。「離れていても交流できる」をテーマに会場展示だけでなく、オンライン講演会や、出展者と鑑賞者が交流できる「バーチャル展示会」も企画している。会場展示は 12 日まで

### 卒業生の活動など紹介

建築 100 人展は、建築学科 OB・OG の多数にわたる実社会での活動を紹介する。2006 年に新建築学科棟の落成記念として第 1 回を開催。その後、毎年恒例の行事となり、5 回(10 年)か計課題、建築学科教員の活動から学外展示(巡回展)も始まり、自然災害の多発や感乗る。症の拡大を考慮して 19、20 年と中止した。  
(第 14 回)は、隅田川沿いの公園に面した長さ約 100 ㎡の展示スペースが会場。意匠たり QR コードで出展者の説や構造、インテリアなど幅広い分野で活躍している卒業生が新作を中心に、代表作や自信作を写真や模型、図面などで紹介している。▽ハウジンググヴェエデュケーション▽ワークショップの 3 テーマにフォーカスしたコーナーを初めて設け、卒業設計の優秀作品や設計課題、建築学科教員の活動から学外展示(巡回展)も始まり、自然災害の多発や感乗る。症の拡大を考慮して 19、20 年と中止した。  
(浅井アーキテクト一級建築士事務所)は「会場に来て、人の若手卒業生がこれからはオンラインで 20 代、30 代、40 代をテーマに意見を交わした。会場の開館時間は午前 11 時から午後 5 時。入場無料。

# 新しい建築 100 人展を目指して

## スタッフ後記

皆様のご協力のもと、コロナ禍であってもよりクリエイティブで魅力ある 100 人展を目指しました。

建築 100 人展委員会をはじめ、多くの方々に運営に参画・ご協力いただきました。コロナ禍で状況の読めない中でも粘り強く、新しいことにも挑戦する姿勢で活動していただき、そのおかげで今年の 100 人展を開催することができました。深く感謝申し上げます。次年度以降も、多世代にとっての交流・発表の場としての 100 人展を皆様と運営していきたいと思ひます。ぜひ、活動にご興味のある方、ご参加いただけますと幸いです。「100 人展でこんなことしてみたい!」「面白いプロジェクトや製品に関わったので企画展をやりたい!」など、積極的にご意見いただけたら幸いです。(建築 100 人展委員長・浅井百合 / 2007 卒業)

【ご協力いただいた方々(順不同・敬称略)】

- 丹羽謙治(如学会事業局長)・栗田祥弘(建築 100 人展委員会主査)・露木博視・中野秀之(オンラインイベント、ハイブリットイベントなどのネットワーク環境サポート、VR 展示編集)・鈴木浩(学生連携・大学連携・会場設営サポート)・真田大輔(ポスターデザイン)・露木紗耶香(写真撮影)・三好敏晴(運営サポート)・寺内朋子(VR 展示サポート)・小見研究室(VR 展示撮影、システムサポート)・落合研究室(会場設営サポート)・鈴木工務店(木製展示台キット作成)・機械工学科白木研究室(会場設営サポート)・山口裕照(取材・日刊建設工業新聞掲載)・米澤博臣(取材・日刊建設通信新聞掲載)・常任理事会の皆様(運営サポート、受付、設営、撤収サポート)

【建築 100 人展委員会】

石川朔美(企画・サイン計画)、小林杏(企画・オンラインイベント担当)、岡本圭吾(企画・運営サポート)、浅井百合



撮影：露木沙弥香

撮影：露木沙弥香

## 「建築 100 人展 2022」お知らせ

現在の状況では判断できない部分も多くありますが、2022 年も建築 100 人展を開催する予定として活動して参りたいと思ひます。発表やコミュニケーションの機会が少なくなる中でも、この展示会が会員の方々の交流の場、学生にとっても卒業生の活動を見られる場として、意義あるものになるよう、どんな形であっても、開催できるよう委員会一同努力して参りますので、ご参加・ご協力お願い申し上げます。また、ご意見・本年のご感想等も下記へお送りいただけますと幸いです。  
如学会 建築 100 人展委員会 <100ninten2021@jogakkai.jp>

**出展者募集!**  
**運営スタッフ募集!**  
建築 100 人展委員長：浅井百合  
E-mail:jogakkai.info@jogakkai.jp

8 月後半、出展者募集のご連絡を会員の皆様へお送りさせていただきます。

## 広瀬鎌二建築展 SH + 第4回

### Report

展覧会の開催とアーカイブ活動

広瀬鎌二アーカイブズ研究会

寺内 朋子

1991 卒 studio T2



展覧会場入口

東京都市大学の前身である武蔵高等工科学校を卒業し、SHシリーズを世に送り出し、母校である武蔵工業大学の教授となった広瀬鎌二（1922 - 2012）が残した建築設計資料を、広瀬鎌二アーカイブズ研究会では整理・保存をしている。その貴重な資料に再び光を当てるため、「広瀬鎌二建築展 SH +」（於：建築会館ギャラリー）を開催している。この建築展は広瀬鎌二生誕 100 年となる 2022 年までの 5 年にわたる企画である。

2021 年はその 4 回目であり、広瀬の代表作である SH シリーズの最終章。スペースユニットへ挑戦した SH-61 ~ 72 を中心に、第 1 回から会場で配布していた SH シリーズのセიმスケール平面図をまとめた展示や、今まで展示した SH シリーズの写真（平山忠治、三沢博昭ほか）も再掲し、SH の全容がわかるものとなった。展示には、東京都市大の研究室にも多くの協力をいただいた。建築学科小見研究室には BIM で SH シリーズを復元した動画、都市生活学部住宅生産研究室（信太准教授）には実測による点群データの動画をご提供いただき、図面だけでは伝えきれない SH シリーズの魅力を表現した。ご来場いただいた信太准教授と時を同じくした来場者は、点群データについて話を聞くことができ、より理解を深められたと思われる。11 月 13 日（土）から 18 日（木）の 6 日間という短い期間であり、コロナ禍でもあったが、約 500 人の方が来場され、広瀬建築の世界をご覧いただいた。

同時に発行した図録には、SH の写真や図面に加え、三宅理一氏、広瀬事務所元所員の古谷幸雄氏にご寄稿いただき、広瀬の遺作となった勝山館ガイダンス施設についてや、広瀬との思い出などをつづっていただいた。毎回、小見教授には構法についての解説を書いていただいております。第 1 回の図録から通してみると、SH の変遷がよくわかる。広瀬鎌二作品を集めた書籍は、現在発行されておらず、この図録が唯一広瀬作品を通してみられるものとなる。なお、図録は非売品で、アーカイブ協力をいただいた方にお分けしている。

これらの活動により、散逸していた広瀬資料も徐々に集まり始めている。この展覧会期間に、われわれ研究会でも把握していなかった SH-74（アンビルド）の存在が明らかになり、青焼きではあるが、広瀬の計画案やパースなどをお預かりすることができた。卒業生への呼びかけにより、原図の見つからない「肆木（しもく）の家」の図面コピーの寄贈を受けた。また、この展覧会をきっかけに、今はなき SH-34 に幼少から住まわれていた方からご連絡をいただくことができ、今

年度、新型コロナが落ち着いたら取材をさせていただき予定である。

2021 年、資料整理を進める中で、「白井晟一事務所」と書かれた 1 枚の図面を発見。文献としては川添登著『白井晟一建築とその世界』『建築家・人と作品（下）』の記述しかなかった白井と広瀬の関係を裏付けるものとして、松濤美術館の「白井晟一入門」展に、その図面や「西京風の家」の図面などを貸与した。白井展の図録にも広瀬のことを載せていただいております。前著書で「西京風の家」が白井の真似であるような書かれ方がされているが、それは正しくないことを言及していただいた。これらの発見や協力により白井晟一研究にも一石を投じることになった。

このように当研究会では、広瀬資料の集約を目指し、アーカイブを進めている。読者のなかで、広瀬についての資料をお持ちの方は、ぜひ、広瀬鎌二アーカイブズ研究会（hirose.archive@gmail.com）にぜひご連絡をいただきたい。

第 5 回（最終回）は、2022 年 11 月 12 日（土）から 17 日（木）までの 6 日間（於：建築会館ギャラリー）を予定。WEB による講演会等も企画している。

広瀬鎌二アーカイブズ研究会の活動は、みなさまの協賛金や協力金によってまかなわれています。最終回の展覧会、その後のアーカイブ活動へのご支援、どうぞよろしくご祈願致します。

Facebook ページ 広瀬アーカイブ HP 協賛金 協力費



展覧会場での信太准教授の解説風景

## 広瀬鎌二建築展 SH + 第4回

### Planning

広瀬鎌二の木造住宅の BIM 化に向けて

小見研究室

下山 秀明

学部 4 年



今回、「広瀬鎌二建築展 SH+ 第 4 回」の設営に参加させていただきました。過去の展覧会を拝見させていただいていましたが、これらの準備をすべて広瀬研究室の OB を中心に有志で行われていることに驚きました。

私が小見研究室に興味を持ったのは、第 1 回展覧会がきっかけでした。小見研究室では、毎年「SH シリーズのデジタルアーカイブ化」を行っており、展覧会へのパネルや動画の出展をしています。そこで SH-30 の再現モデルを拝見しました。モデルは細部まで作りこまれており、実物を見るのに近い感覚でその特徴を知ることが出来ました。これらの再現に BIM というソフトを用いられていること知り、私も BIM について学びたいと考えるようになりました。

また、広瀬鎌二という建築家を知ったのもこの展覧会がきっかけでした。工業化を模索していく中で建てられた建築に、視覚的にも構法的にも多くの魅力を持つ建築があることに、当時まだ建築について何も知らなかった私は魅入られたのを今でも覚えています。

現在、私は広瀬先生の「肆木の家」の BIM 化に取り組んでいます。鉄骨造である SH シリーズとは違い、「釘金物を一切用いずに建てられた」という特徴をもつ木造住宅です。多くの図面から構法を読み取り、複雑な仕口を 1 つ 1 つ再現して部材を作成するのはとても大変な作業でした。特に、収集された図面も現場で加筆修正されながら用いられたもので、足りない図面も多くありました。しかし、他に類を見ない広瀬先生独自の構法を知ることが出来たのは大変有意義でした。来年度で最後となる展覧会では、広瀬先生の木造の魅力を伝えたいと思います。



SH-70 の再現モデル

## 広瀬鎌二建築展 SH + 第4回

### Planning

VR 展覧会の作成とこれから

小見研究室

田中 一成

学部 4 年



広瀬鎌二建築展 SH + 第 4 回 / VR 展覧会は、コロナ禍で来館を控えている方や、遠方の方にもご覧いただくために開催しました。具体的には昨年開催された広瀬鎌二 SH + 第 3 回 / VR 展覧会と同様に、仮想空間内を自由に歩き回れるバーチャルツアーの手法で MatterPort 社のシステムを利用しました。撮影の機材は、スマートフォンと 360°カメラの 2 つを使用しました。広瀬鎌二 SH + 第 4 回建築展の設営が完了した後に、スマートフォンにインストールした MatterPort 社のアプリと、360°カメラを Bluetooth で接続し、360°カメラを撮影したい場所に設置し、スマートフォンで撮影します。撮影終了後に約 1.5m 移動させ、再度スマートフォンで撮影をする作業を、全体の撮影が完了するまで繰り返します。全体の撮影が完了したら、撮影データをアップロードすると、数時間後にデジタルツイン化が完了し、それらを PC で編集を行います。撮影時間も約 40 分と比較的短期間かつ低コストで撮影を行うことができます。

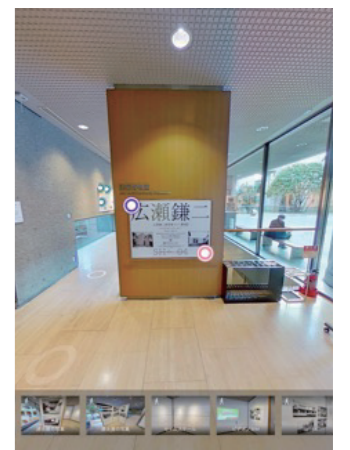
編集では、広瀬鎌二建築展 SH + 第 4 回をデジタルツイン化したものに更なる情報を追加するために、前回と同様に図面や動画などのキャプション類を埋め込み作業を行い、今回の展覧会では更にハイライト機能を実装しました。

現在、東京都市大学小見研究室でデジタルツインを用いたマンションの維持管理手法に関する研究を行っており、デジタルツイン化したものに様々な情報や、ユーザーにとってとても使いやすい機能の実装などを行なっています。それらの技術を使用し、次回以降の広瀬鎌二建築展 SH + / VR 展覧会で、今回以上に様々な便利な機能を実装したものを作成できれば良いと考えています。

第 4 回 VR 展覧会



バーチャルツアー内で表示される図面



バーチャルツアー内のハイライト機能の実装



# 同級生クロストーク 第1回

## Interview

太田 温子 2006 卒  
 鈴木 敏志 2005 卒  
 高橋 良弘 2005 卒  
 竹下 加奈子 2005 卒

卒業して約15年、それぞれ異なる分野で活躍している4人に集まって頂き、卒業してから今まで考えてきたことや、コロナ禍を経験して感じていること、これからの展望などを、ざっくばらんに話していただきました。

学生時代に同じ時を同じ場所で過ごしてきたから分かり合えることもあれば、久しぶりに会ってお互いの話を聞いて改めて気付くこともありました。

情報委員 川端 彩乃、中村 芽久美、松永 咲子 編

### 設計からビジネスデザインへ

ー仕事や仕事以外で今何をやっているかをお聞かせください。

**高橋** 一つは株式会社 kenma というビジネスデザインをする会社で、空間のデザインを主に担当しています。例えば、その会社でプロデュースする文房具であったら、展示空間をやったり、新築オフィスビルのブランドを作りたいという相談に対して、デザインを提案して監修したりするような仕事をしています。あとは、宇津木くん（\*1）の事務所と一緒に自宅を設計したところから縁があって、自宅の一室を宇津木くんに貸しているの、案のアイデア出しとかは一緒にやっています。

**竹下** 具体的にどんな仕事をしているの？

**高橋** どちらかというと企画を多くやっている感じかな。基本のアイデアを作るような仕事が多い。今は、自宅の仕事をして物決めする時だけ現場に行っています。今年の4月から宇津木くんとやるプロジェクトも多くなってきたし、もうちょっとフレキシブルに働きたいなと思って、プロジェクト毎で契約することにしました。

**鈴木** 自由に時間とか決められそう。

**高橋** そうだね。21時半に子供と一緒に寝たりとか。

**竹下** すごい、とっても健康的。

### 淡路での経験が今を支えている

**竹下** 私は、組織設計事務所で7年ぐらい働いて、体調を崩しちゃった時に淡路島に行く話があって、2年という期間限定なこともあり、人生をもう一度見直すのにいい機会だなと思い行きました。

ー淡路島ではどんなことをされていたのですか？

**竹下** 厚生労働省のプロジェクトの一環で、淡路島の地場のものを利用して雇用を生むためのものづくりをしていました。地元の人に密着して、土地の魅力を知りながら活動していました。外部から見るとすごく魅力があるものを生かしてなかったりするんです。作り手さんやデザイナーさんなどと一緒に、その魅力をいかした商品作りをしていました。淡路に行って、人と一緒にものづくりをしていく楽しさを改めて感じさせてもらって、自分の働き方も見直し始めたというか。自分も無理をして、周りの人にも無理を強いてまで仕事をやりたくないなって感じました。

2年経って、結局やれることって建築しかないかもしれないと思ったので、今は東京に戻って中堅ゼネコンの設計部で働いています。賃貸の住宅や老人ホーム、幼稚園などを設計しています。



\*写真は左から 竹下さん、太田さん、高橋さん、鈴木さん

今でも時々無理をしそうになるけど、淡路での経験があるから一歩立ち止まって考えられるようになりました。

### アトリエで個人の仕事も受ける

ーでは、太田さんはどうでしょうか

**太田** 私は卒業してから地元の静岡に帰って、少しの間ハウスメーカーに勤めました。住宅もやりたくて入ったけど、住環境だけでなく商環境もデザインしたいという気持ちが膨らんできました。そんな時に、興味があったアトリエ事務所がちょうど採用募集を始めたところだったので、思い切ってポートフォリオ持って行きましたね。

ー地方から東京に再上京したということですか？

**太田** 最初は試用期間もあったので、採用されるかわからなかつ

竹下 加奈子

2007年 修士課程 修了(手塚研究室)  
 2007～13年 日建ハウジングシステム勤務  
 2014～16年 淡路はたらくカタチ研究島  
 2016年～ 大成コーレック

高橋 良弘

2007年 修士課程 修了(岩崎研究室)  
 2007～19年 山下設計勤務  
 2019年～ kenma 参画  
 2020年～ 333 architects に参画

太田 温子

2006年 学部卒業(手塚研究室)  
 2008年 修士課程 修了(小林研究室)  
 2008～10年 ハウスメーカー勤務  
 2010年～ 日吉坂事務所 勤務

鈴木 敏志

2007年 修士課程 修了(西村研究室)  
 2007～14年 東急建設  
 2012年 博士後期課程 修了(西村研究室)  
 2015～ 愛知工業大学工学部 建築学科



**太田** そうですね。私個人にきた仕事を事務所ですることも増えてきたので、事務所でする時には一緒にやりつつ、そうじゃなければ、高橋さんみたいにプロジェクト契約の方向へ持っていくのもいいかなと思っています。

### 恩師との関係から大学の教鞭へ

ーでは、鈴木さんはどうでしょうか。

**鈴木** 僕は卒業してから8年間はゼネコンで働いていました。入社2年目からは働きながら修士でお世話になった西村先生の元で4年間かけて博士号を取りました。入社して1年目は研修で現場監督していて、すごく大変な毎日だった。

**竹下** ゼネコンはそうだよな。

**鈴木** 現場監督の後、会社の技術研究所に移りました。ちょうど会社と西村先生が免震構造の共同研究をしていて、その実験を担当して博士論文も書かせてもらいました。その2年後に、今の職場のから連絡をもらって、転職して愛知の大学で教員をしています。

定年で退職される先生の代わりを探していたみたいで、免震・振動の分野で博士号を持っている若手という条件で検索して、見つけてもらった感じかな。会社で自分が所属していたグループ内では実働部隊の若手が自分だけの時が少しあったんだけど、中途採用の人が入ってきて慣れてきたところに連絡をもらったこともあって、一週間後には「行きます」って返事をしたんだよね。

**竹下** いや、それもすごいね。

**鈴木** 自分では行こうかなってメールもらった時に思ったんだけど、西村先生には一度相談したいなと思ってたんだよね。たまたま別件と一緒に仕事していたから、会って話をしたら「いい話だと思うよ」と言ってくれたんだ。

**竹下** いいね。教え子が同じ道を進むことはうれしいと思うよ。  
**鈴木** 元々自分では、教員になりたいっていうのは思ってなくて、博士号を取れたのも西村先生が声をかけてくれたからなんだよね。  
 ーその時に即決で教員になろうと思ったのは、何か理由があったんですか。

**鈴木** 単純に楽しそうだなって思ったからかな。

ー西村先生との信頼関係も素敵ですね。

**鈴木** 博士論文が本当に西村先生に書かせてもらったという気持ちが強かったから。今は西村先生と同じ教員になって、何かで先生を超えられたらなと思っています。

たけど、前の会社を辞めないと次にいけないと思ったので迷わず「辞めます」と伝えました。無事採用されて、なんとか働き始めて早11年です。

ー今の職場はどうですか？

**太田** 性格的にもあまり自分1人で何かをやっていくという感じではないので、やるなら誰かと一緒の方がいいなとは思っていました。長年アトリエに勤めていて、ボスともお互い分かり合えてもいるし、会話もしやすいですね。ある意味お互いに関心がないところもやりやすいです。

**竹下** いいことじゃない。

**太田** ボスとはお互いに客観的にモノを見られるような関係になれていると思うので、とても仕事がしやすいです。

**竹下** 今の状況としては、今後どう感じ？

のこのの方がむしろ多いくらいだとは思いますが。環境から設計していくやり方もあれば、構造から設計していくやり方もあるので、もうちょっと考える力がつくような教育があるといいのかな。

一いま考えると、意匠の教育に力を入れていたのは、うちの大学の特徴、強みだったとも言えるのかもかもしれませんね。

**高橋** 昔と違うのはその答えが建築じゃない場合もあると思って。設計の授業の課題があるとしたら、別に新築じゃなくていいんじゃないとか。決まった敷地じゃなくてもいいんじゃないかっていうのもあるから、そこができる今とっばいかもね。例えば、小学校では教科別で教えるんじゃないなくて、歴史を学ぶ中で数学とか星の話が出てきたりとか・・・そういう教育が今あるよね。総合的な人間って多方面の視野を持つてる人だから、設計の授業とは別にそういう教育があってもいいのかも。答えが建築に繋がらなくてもいいし、別に Web サービスでもプロダクトでも家電でもいい、そういう課題があってもいいのかな。授業の一つとして。

一どんな授業をしたいかは、その大学が何をを目指したいか、どんな人を育てたいかにもよるんですかね。

**竹下** いろんなことができるっていうことを伝えてあげた方がいいかもしれない。

**鈴木** 武蔵工はいい大学だったなと他の大学で教員になって改めて感じた。ただ、これからの大学教育は自分たちの時とは変わってくるところもあるかもね。

**高橋** 時代がすごく変わってるからね。新築を建て続けるのってどうなの？とも思うね。

建築に携わる一定数は問題解決する人みたいになってくると思うな。既存ストックの活用方法を探すとか。

意匠系の中でも多方面の道があってもいいんじゃないかと。

**太田** 建築家だからデザインのすごい特化しなきゃいけないっていうわけではない。様々なアプローチがあってもいいと思います。

一こうして、様々な分野で活躍する人達の話聞いてみて、何か思ったことがあればお願いします。

**太田** 同じ大学の建築学科でも、卒業してみると、同じ建築という分野でもこんなに働き方とか考え方が違って、自分が楽しい、面白いと思うことをやっていく感じがすごくいいなと思いました。それをお聞きできたことがとても面白かったです。あと、やっぱり進む道はひとつじゃなくていい！って、改めて実感しました。それこそ、もう自分の好きなことをやってみればいいんだと思います。

これからも、どうやったら人と楽しく過ごせるか、良くしていけるか、できるだけ前向きに考えていきたい。こうじゃなきゃいけないとあまり思わずに、どんどん何か新しいことにチャレンジしたいと思います。

**高橋** やっぱルーツは学生時代にあったんだなって思って。製図室が楽しかったっていうのがスタートで、そんなノリをこれからもやり続けたいなと。

その時に今までの建築にはない方向性も自分の中で持ちながらやれば、楽しくこの先の人生を生きられるんじゃないかと思っています。

良い機会をありがとうございました。

\*1 宇津木 喬行 2007年 武蔵工業大学大学院 卒業

\*2 鷺見 晴香 2009年 武蔵工業大学 卒業

**鈴木** 今の話を聞いてて感じたのは、武蔵工って良い大学だったなって。こうやって集まろうと思えばすぐに集まったり、すぐに繋がれて一緒に仕事ができたり。そういうのが今いる大学では少ないのかなと感じるんだ。だから、今後のやりたい事としては、今いる大学に武蔵工のいい所を取り入れていけたらなと思っています。先輩や後輩、同級生から学ぶことっていっぱいあったと思うんだよね。それがキッカケで繋がる関係が今でもあって・・・。そういうのが凄よかったなと思うから。

**高橋** 都市研やデ研や構デ研みたいなのはないの？

**鈴木** あるけどあまり活動は活発じゃないみたいで、今自分では、豊田市美術館や岐阜メディアコスモスが近いから、いろんな学年の学生に声をかけて、一緒に見に行き行って交流を深めてもらったりしてるけど、まだまだかな。

夏休みの講座に参加させてもらったときに、久しぶりに都市大の学生と話す機会があって、懇親会時には積極的に質問にきてくれる学生がいて、自分が学生の時に感じていた雰囲気は今でも残っているんだろうなと感じて。この雰囲気を作り出すにはどうやったらいいのかなと考えてる。

**高橋** いいね。いい目標だね、土壌づくりというか。



**鈴木** 武蔵工で学んだことが社会に出てから役に立ったなとか、この部分は少し足りてないなって感じることはあった？

一例えば、構造力学や環境工学など意匠以外の分野の授業がどのように実務に繋がっているのかがわかりにくかったなというのは思っていました。

**鈴木** 構造は構造設計の授業がそこまで多くなくて、意匠設計にすごい時間を割いていたなと思う。意匠の分野に進んだ人たちは何か思うことはあった？

**竹下** 意匠は意外となんとかがやっていける気がする。

**高橋** やっぱそこが課題だと思うんだよね。意匠が主流です、みたいな。

学年が上がる中で設計の授業を選択しなくなっていった人の中には複雑な気持ちを抱いていた人もいたと思う。でも、建築学科で一通り勉強することって意匠に直結する能力だけじゃないし、それぞれの分野で面白いことをやっている人は沢山いるはず。別の分野を選んだときも、ちゃんとサポートしてくれる体制がもっとあった方がいいのかなと。意匠系の先生が多かったじゃない？

**太田** そうですね。イメージとしてはやっぱり建築学科＝意匠っていう夢をもっていますよね。設計一つとってもデザイン以外

てもできるんだなって。

**高橋** だから好きなことをやったほうがいいよ。

**竹下** 今は何かをつくる架け橋になることもやれたらと思って。

**高橋** 今の仕事の中で、どこが好きかを見ていくと良いかも。

**竹下** 私はデザインを考えている時が好きかも。設計図を描くよりも、こういう空間だと人が喜ぶかなと考えるのが好きなんだと思う。

みんなの話聞いてて思ったのは、すごく仕事に対して楽しそうだと感じて。そういうのいいなと。

### 働く場所も方法も内容も身軽に自由に

**太田** 高橋さんの二拠点生活の話聞いて、凄くいいなと思いました。今、私のやっている仕事は規模が小さいので建築模型を作りながら検討することも多くて、動きがとりづらい部分はあるんですけど、コロナ禍で働き方が変わって、常に事務所にいないとできないという事も減ったというか。地元の静岡で住宅の仕事をしているんですけど、現場に行き、その場所で別の仕事もやるというのも割とできていて。もう少し色々な場所で仕事をできるというのいいなと最近は思っています。ある程度年齢も重ねて、一通り仕事をできるようになったので、もうちょっと自由に動けるといいなって。

今これだけ情報化社会で、SNSなどで自分を表現できるようになったので、色々な仕事の受け方・やり方ができると思います。私も、もっと幅広い仕事をやってみたいなと思いました。

**高橋** 好きなこととかやりたい事を追求していったほうが、どんどん研がれていいかもね。似たような価値観の人に出会えれば、もっとやりたい事ができるようになるだろうしね。



### 大学をもっと活発にしたい。

一静岡で仕事をするときに、業者との繋がりはどうしていたんですか？

**太田** 地元に残って同じような事をやっている知り合いから工務店を紹介してもらいました。そういえば、他に静岡にいる同じ研究室だった先輩にも連絡したんです！結婚をされて静岡に移住されたことを知っていたので twitter で連絡して、地場の業者を紹介してもらったんです。

**高橋** 大学のつながりって声かけやすいよね。僕も今、鷺見晴香 (\*2) さんっていう 4、5 歳下の後輩と一緒にリノベーションの仕事をしてる。今、ランドスケープで何かやってる卒業生を探してるんだよね。(笑)

### 二拠点生活と自身のブランディング

一 40 代手前で、これからの展望があったらお聞きしたいのと、コロナ禍で環境が変わって考えたことがあれば是非聞いてみたいです。

**高橋** 子供が小さい間は家庭にコミットできるような働き方がいいなと思って、来年は子育てに時間を割くつもりです。今、横浜の家以外にも一拠点作りたいなと思って。今の家は下の階を貸してその賃料を住宅ローンの支払いに充てるような仕組みにしたから、実質出費がない状態なんだ。二拠点目も同じようにシェアする形で作ると、平日横浜、休日郊外でゆっくり子育てできるから、それを今計画している。

**竹下** そういうふうに思ったのは何で？

**高橋** 30 年前ぐらいからおじさんが館山と東京で 2 拠点生活してたので、割と身近だったんだよね。週末だけ郊外でのんびり過ごすっていうのを見ていたから僕もそれやりたいなって思ったんだ。

**太田** 私の最近の仕事でも、都内在住の方が郊外に週末遊びに行ける場所が欲しいということで、中古のリゾートマンションをリノベーションしたことがありました。海の近くで、週末に子供たちと一緒にそこへ遊びに行ったり、たまには 1 人で行ってリフレッシュしたりして。コロナ禍、自宅でも会社でもどちらでも働けるようになって、そういう人たちは増えているのかなって。

**高橋** 僕の場合は、自分で仕組みを作って運営しているっていうのが、これから一つのブランドになると思っている。シェア別荘も、一つ作ってそれが看板商品になると相談がくる流れになって、よりライフスタイルと仕事が融合していくとあって、それを狙ってます。(笑)

**太田** 設計事務所働いていた時とは全然違うわけですよね。

**高橋** 設計事務所にずっと勤めようとは入社した時から思っなくて、こういう仕掛けをつくりたいとずっと思ってた。とりあえず設計は一通りやったから、もう一本柱を自分の中につくろうかなと考えていたかな。

一両方あるから強いっていうのもありそうですね。

**高橋** 12 年間働けばどこに行っても働けるスキルはあるから、今の状態が上手いかななくても再就職すればいいなという気軽さもあるかも。

### 何かを作る人の架け橋に

一建築以外の分野の人と仕事をするというのも当初から思い描いていたんですか？

**高橋** そうだね。建築の中身を見ていくと、お金も法律も構造もやるし、デザインもやるし。だから、今の仕事でプロダクトの商品開発をするときも、建築の頭の働かせ方でアイデア出しができるんだよね。

商品の写真を撮るときも、コンセプトを一番表現するにはどうすればいいかという視点でディレクションもできるし。意外と建築で学んだことは汎用性があるんじゃないかと思っています。

**太田** そうですね。店舗のグラフィックを作る際も、結局コンペのレイアウトを作るのと同じような感覚で考えていたりしますよね。

**竹下** 私も淡路島でものづくりをしていた時に、グラフィックデザイナーさんは別にいたんだけど、建築をやっていたから全体を取りまとめて進めるのは出来るんだって感じた。今、高橋さんの話聞いていてそれを思い出したよ。だから別の分野に行っ

山岡嘉彌デザイン事務所  
山岡 嘉彌・植谷 英子  
1971 卒・2002 卒



「鶯啼居」(おうていきよ)の名の由来は、江戸時代この地に隣接して旧仙台藩松平陸奥守(伊達政宗公)の下屋敷跡があり、かつて俳人・松尾芭蕉が「うぐいすをたずねたずねて阿左布(現・麻布)まで」と詠んだと伝えられる竹林があり、うぐいすの名所であったことに由る。建て替え前にも庭木にうぐいすが来ていたが、今回の竣工に合わせて、今後も「鶯の里」となるように願い、山岡が命名した。

唯一の町の歴史と文化の生き証人として

今から270年前の江戸時代中期の宝暦年間に、この地に移住した近江商人らによって、隣接する大名屋敷への出入り商人の町がつけられた。この「鶯啼居」は、その一角に私の祖先が薬屋として創業した。以来、商人街は町屋風に軒を連ねた30数軒の商店として現代まで続いてきたが、最近蔵のある店舗を含めほとんどの商店が姿を消した。「鶯啼居」は「旧江戸御府内(江戸市中)最古の店蔵」となり、私は建築に関わるものとして、「唯一の町の歴史と文化の生き証人」として、その地に残り、次世代へと伝えていく義務と宿命のようなものを感じていた。

しかしながら、一個人による文化財としての保存・継承はいろいろと困難を極め、事業として集合住宅に組み込むことで「リビングヘリテイジ(生きた文化遺産)」として活用していく道を選んだ。それは一度解体し、再度組み立てて保存再生していく。それに先駆けて、店蔵(江戸中期)と母屋(昭和初期)の実測調査を行い、報告書としてまとめた。

解体して顕在化した先人の技術

店蔵は、解体することによって初めて顕在化した江戸時代の素材、ディテール、工法(構法)から建造の技術と共に、修復技術も学び、宮大工・山田誠司氏のもと、歴史的工法であるく仕口と継手>>ひかりつけ>>竹小舞>>スサ入り漆喰壁>>三和土>などなどを保存再生、<高い>を建築化した「店蔵」という小さいながらも歴史的建築を次世代につないでいく試みとなることを日増しに実感することになった。

この店蔵を内包する建築も土蔵造りの店蔵同様厚いRC造の壁式構造で、しかも各階自由度の高い、将来の可変性にも対応したつくりとなっている。正面の縦繁の格子戸や店蔵内の柱、梁、天井板、潜り戸付き上げ下げ大戸、箱階段、提灯箱などは以前のままに再建し、かつての外観にあらわれていた瓦屋根、漆喰の壁、簾(すだれ)などの風情を、現代の耐久性のある素材と構法で再現し、未来へ繋げていくというイノベティブな部分も工夫することになった。



「店蔵」(1751-64宝暦年間)2020年保存再生のために解体 撮影：坂口裕康



完成写真 2021年8月竣工 撮影：坂口裕康



4階 LDK 撮影：山岡嘉彌



再生された「店蔵」で説明する山岡嘉彌氏(右手前) 撮影：前芝優也



「店蔵」内部 撮影：山岡嘉彌



復元・再生された店蔵内の箱階段 撮影：山岡嘉彌



4階 庭園出入口 撮影：山岡嘉彌

栗田祥弘建築都市研究所  
前芝 優也  
2019 修



少し肌寒くなってきた10月下旬、山岡嘉彌デザイン事務所の設計による南麻布に位置する「鶯啼居」の内覧会に足を運んだ。

鶯啼居は南麻布で江戸時代から唯一現存すると言われている店蔵を集合住宅の一部として保存再生を試みたプロジェクトである。設計者、歴史学者による研究調査を経て江戸時代中期の宝暦年間(1751-1764)に建造されたことが分かった。築270年もの歴史ある店蔵は時を経て、集合住宅の建築に伴い店蔵は解体され、集合住宅の一部として建て替えられた。店蔵の中は、日常生活では普段目にする事のない貴重なものばかりで、吊り上げ式大戸、箱階段、檜の大梁、掛時計、提灯箱などタイムスリップしたかのような空間に包まれていた。建築の構成としては1階に保存活用されている店蔵と上階に住う住人のための共用部、2階から5階は共同住宅、屋上には都心部を一望できるテラスとなっている。

近代建築の解体や都市のスクラップアンドビルドが著しい昨今ではあるが、そんな状況とは裏腹に南麻布の店蔵は周囲の変化に動じず歴史を刻んできた。建物に対する誠意を学んだような気がした。建物を壊すにも、建物を造るにも様々な理由が存在している。

ただ、鶯啼居に関しては「残す」という選択を選んだ。

西洋建築には「スポリア」という考え方がある。歴史的な建造物から他の建物へ要素や部材などを転用することを意味する。既存の建物を丁寧に扱う西洋建築文化ならではの考え方であり、部材1つにしても生命が宿っているかのように大切に扱う。

鶯啼居の場合は例に挙げたようなスポリアの本質とは少し異なってしまうが、解体した建物のほとんどの部材を再利用して同じように建築したことで、エレメントや部材の持つ歴史性に改めて気付くことができたのではないだろうか。

歴史に包まれた空間は、集合住宅の住民や近隣住民との新たな接点の場として生まれ変わり、歴史の時間を止めることなく次の世代へと時を刻んでいく。江戸時代から店蔵は、江戸、明治、大正、昭和、平成、令和と6代を生き、更に今後50年後、100年後どういった形で活躍しているか今から楽しみである。

この計画には如学会の仲間として以下の各氏が参加した。  
特殊照明：川村和広(sola associates)、植栽：山崎誠子(GA ヤマザキ)  
写真：坂口裕康(AtoZ工房)、書：丹羽謙治(デザインサークル)

# 丘の上のグループホーム

## Planning

SOGO 建築設計  
十河 彰・麻美  
2004 卒



©SOGO AUD

多摩丘陵を開発してつくられた古い住宅地内に位置する軽度知的障がい者のグループホーム。入居者だけでなく、地域の誰もが気軽に集まって来ることのできる、大きな傘の下のような場所づくりが求められた。同じ住宅地内には開設者である NPO 法人が運営中の二つのグループホームがあり、その第三期計画として計画された建築である。

敷地は富士山への眺望に恵まれた丘の上。ここではグループホームとしてだけでなく、子ども食堂や、シニアクラブの集会所、また災害時の避難場所としても開放するという施設運営を行うことで、地域社会に深く根差した福祉施設のあり方を築こうとしている。そのために建築は、敷地境界を越えて周辺とのつながりを育むような建ち方を模索した。

福祉施設を小さく分散させて、既存住宅地の中に紛れるように時間をかけて段階的に建設している。建物を小さくすると、何かしらを諦めざるを得ず、それぞれ何かしらの不足が生まれる。その不足を複数の施設を連携して運営することにより補う。そうすることで入居者は、複数の建物を行き来しながら生活する。これにより障がい者がまちの中に出ることが日常となる。まちの中では時に嫌な思いもする。しかし「まちの中での生活から学べることの多様性は何ものにも代え難い」との考えから、このような計画へと至った。



©SOGO AUD



©SOGO AUD



©SOGO AUD



©SOGO AUD

# 丘の上のグループホーム

## Report

新居デザイン・HAD 一級建築士事務所  
新居 仁  
1973 卒



十河彰氏は東京都市大学手塚研究室を出た後、東京藝術大学大学院、フルブライト留学生としてカリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院を卒業。帰国後新居千秋都市建築設計にて超高層建築、公共建築等を担当したのち独立。

留学先のアメリカでの環境から学んだ【社会は変えていく余地がある】という命題が、自身の設計に対する姿勢であるようだ。

『丘の上のグループホーム』は吉阪隆正氏設計の八王子大学セミナーハウスに近い住宅街の西の丘に立っており、『峠のグループホーム』『角地のグループホーム』に続く同じ NPO 法人による施設で、障がい者—この言葉自体疑問に感じている—が社会の一員として自然に過ごし、生き活きと暮らしていけるようなインクルーシブな生活の場の一つとして、グループホームの建築の意義がある。

地域の中にごく普通に存在し、適度な近隣との距離感をもたせる環境作りの工夫が見て取れる建物である。

設計の意図はそれぞれの部屋の構成によく表れている。プライバシーを守りたい個室は窓の大きさや取り付けの高さが計算され配置されている。皆が集まるリビングダイニングは開放感のある開口部により、洗練されたデザインの大きく張り出した庇を持つ外部テラスと一体化され、伸びやかな空間の広がりを作り出している。自然景観を満喫できるだけでなく、地域社会とのつながりを柔らかく感じさせる。

光の差し込み、風の通り抜けが、それぞれの場所の中で五感に感じられる居心地の良い設計となっている。

大開口部の木製サッシュ、階段周りの手すりを含めたディテール、庇のデザイン、素材の見せ方など、十河彰・麻美両氏が作り出す空間のセンスの良さが感じられる。

オンスタジオ構造設計下久保亘氏（東京都市大学非常勤講師）と組んでの一連のグループホーム施設設計により、NPO 法人事業者の意図する空間構成を成立させている。

子ども食堂や集会場などの使い方も考えているというこの施設は、地域に溶け込み多様性を尊重し、自由に誰もが生きていける社会を創り上げていくことの可能性を確信できる良い見学会であった。

東京都市大学での講義を通じて、社会を変えて行くことを目指し、留学を含めた海外経験を積む意義や、多様な環境に対する設計スキルを学生たちに伝えていって欲しい。

つぎに2人でつくりあげる作品を楽しみにしている。

## 蔵田賞・如学会賞及び各賞

# Commendation

如学会では建築学科卒業研究の顕彰として「蔵田賞」（卒業設計最優秀賞）と「如学会賞」（卒業論文最優秀賞）を授与しています。建築学科教室の協議の結果、2021年度「蔵田賞」に鳥居滯さん（手塚研究室）、「如学会賞」に中森樹君（佐藤研究室）が選出され、2022年3月19日の学位授与式にて記念品が贈呈されました。

<span>■</span> 蔵田奨学基金賞	
鳥居 滯（手塚研究室）	
<span>■</span> 如学会賞	
中森 樹（佐藤研究室）	

■卒業設計優秀賞
2022年2月7日、12日に卒業設計講評会が行われました。7日は学内講評として計画・意匠系の専任教員および設計演習の講師陣を審査員に、12日は学外講評として佐藤光彦氏、佐藤淳氏をゲスト審査員にお迎えし、審査の結果、下記の通りに個人賞が授与されました。また、下記の8名が卒業設計優秀賞として建築学科教室から表彰されました。

<span>・</span> 卒業設計優秀賞	
永木 伶奈（手塚研究室）	小原 郁（福島研究室）
片岡 空良（福島研究室）	近藤 邦央（手塚研究室）
笹木 聖（福島研究室）	下中 拓哉（堀場研究室）
水野 誉也（福島研究室）	横田 桃華（堀場研究室）

<span>・</span> 個人賞	
浅倉 有希（手塚研究室）	杉本拓海賞
永木 伶奈（手塚研究室）	佐藤淳賞
笹木 聖（福島研究室）	小栗幹雄賞
五十川秀太（堀場研究室）	能作淳平賞
横田 桃華（堀場研究室）	高塚章夫賞 栗田祥弘賞
小原 郁（福島研究室）	青木弘司賞
水野 誉也（福島研究室）	十河彰賞 松井亮賞 大島彩賞
鳥居 滯（手塚研究室）	井手勤賞
富樫 弦人（手塚研究室）	柏木穂波賞 羽鳥達也賞

■卒業論文優秀賞
2022年2月9日に卒業論文発表会が行われ、建築学科教室から下記の10名が卒業論文優秀賞として表彰されました。

小松 正樹（片桐研究室）	笹生 啓太（中川研究室）
八巻 溪太（山口研究室）	浅野 桃花（小林研究室）
宮沢みなみ（近藤研究室）	菱川 善就（大村研究室）
名取 郷（焦研究室）	大原 由己（落合研究室）
前之園航大（小見研究室）	鶴飼 翔太（佐藤研究室）

■修士論文優秀賞
2022年2月11日に修士論文発表会が行われ、建築学科教室から下記の3名が修士論文優秀賞として表彰されました。

田夢 俊基（中川研究室）	顧 親親（岩下研究室）
山田 星奈（大村研究室）	

■修士設計優秀賞
2022年2月12日に修士設計講評会が行われました。学内審査員として計画・意匠系の専任教員と学外審査員に佐藤淳氏をお迎えし、審査の結果、下記の通りに審査員から個人賞が授与されました。また、建築学科教室から以下の3名が修士設計優秀賞として表彰されました。

<span>・</span> 修士設計優秀賞	
岸 晃輔（福島研究室）	寺島 瑞季（福島研究室）
西 寛子（手塚研究室）	
<span>・</span> 個人賞	
寺島 瑞季（福島研究室）	片桐悠自賞 中川純賞
根津 慶之（手塚研究室）	山梨知彦賞

## 2021年度 卒業論文・修士論文

# Report

<b>片桐研究室（計画系）</b>	
草野琴音	自由ヶ丘の緑道における座所滞在の実態調査 <p>―九品仏川緑道のベンチ利用者に着目して―</p>
小松正樹	重要伝統的建造物群保存地区における若年層の1ターン者による空き家活用事業の実態とその可能性 <p>―長野県塩尻市楯川区木曽平沢を対象として―</p>
子安末紗	コロナ禍における公共空間としてのストリートの役割とその実態の調査 <p>―横浜市日本大通りの空間利用実態に関する2018年と2021年の比較―</p>
佐藤新太	立方体形式をもつ現代建築のスケールと外形の関係性
佐藤里香	正方形平面を持つ近世社寺建築の本殿・本堂の要素分析と同一スケール比較 <p>―北海道・東北・中国・四国・九州地方を対象として―</p>
須田萌香	立方体形式をもつ現代建築のスケールと外形の関係性
高田優輝	COVID-19 蔓延防止対策としての道路占用許可に伴う東京駅周辺の街路実態の調査 <p>―2021年8月の丸の内中通りにおけるテナポラリーストリートファニチャー―</p>
谷野立樹	正方形平面を持つ近世社寺建築の本殿・御堂の同一スケール比較 <p>―関東・中部・関西地方を対象とした歴史的背景の考察―</p>

<b>手塚研究室（計画系）</b>	
宮崎拓実	ストリートレベルで見る MIYASHITA PARK

<b>中川研究室（計画系）</b>	
遠藤千帆	座席選択と内面的要素の関係性に関する基礎的研究
大上峻太	応急仮設住宅団地内におけるコミュニティ形成の要因に関する研究 <p>―阪神・淡路大震災、中越地震、東日本大震災、熊本地震を通して―</p>
小松原健	公共空間におけるビデオ通話と対人距離に関する基礎的研究
笹生啓太	学業的援助要請を考慮したオンライン教育に関する研究
定村正夫	小学校、就学前児童施設における親しみやすさに関する研究 <p>―バタン・ランゲージとの比較・検討―</p>
高橋優美	関東圏における道の駅の平面計画に関する研究
谷夏実	児童向け施設における感染リスク低減に関する研究
早川知花	滞留空間と人的要素の関係性に関する研究
山田來実	大学キャンパスにおける滞留地点選択に関する研究
小幡彩	全国的重要伝統的建造物群保存地区の持続可能性に関する研究 <p>―設計者の技術継承と自治体による修理記録の保存―</p>
立川豊	渡り廊下・回廊の計画技術についての考察―寺院建築と現代建築の比較を通して―
田夢俊基	公立文化ホールにおける長期使用の要因に関する意識調査 <p>―公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究―</p>

<b>福島研究室（計画系）</b>	
小原郁	妹島和世とヴァージニア・ウルフとの比較検討による女性作家論

<b>堀場研究室（計画系）</b>	
新倉兎輔	マクロな観点による屋上緑化の環境に対する影響について
正木颯太	金沢海みらい図書館の観察による図書館の利用形態の研究
横田桃華	都市の領域とその境界面に関する研究
吉田竜生	都市オープンスペースにおける斜床広場と階段広場の利用形態の比較

八巻溪太	学校施設の長寿命化計画の策定状況及び計画内容に関する研究 <p>―神奈川県市町村の分析―</p>
富永悠莉	小中一貫校の施設整備を対象とした既往研究の成果と課題に関する研究

<b>岩下研究室（環境系）</b>	
佐藤大地	旭川の高等学校教室における空気環境と気候の関係についての研究
寺牛美緒	コロナ禍の機械換気設備を持たない小学校教室における空気環境に関する調査
土肥史弥	機械換気設備を持たない小学校教室のコロナ発生前後における冷暖房稼働の変化に関する研究
内田涼介	中央式空調設備をもつ宮崎県の小学校教室におけるコロナ禍の空気環境に関する研究
大塚夏海	RC造耐震壁の要素モデルにおけるコンクリートの歪み軟化特性
小黒孝祐	超音波伝播特性を用いたRC造壁のひび割れ補修に関する評価
金子龍太	高齢者福祉施設における在室人数予測に関する研究
中森樹	コロナ禍における東京都の小学校教室内の換気稼働状況に関する研究
逸見知寿	旭川の高等学校教室における温熱空気環境に影響を与える人為的行動に関する研究
顧親親	室温変動から推定する冷暖房稼働状態と室内環境に関する研究

<b>小林研究室（環境系）</b>	
浅野桃花	オンラインミーティングの種類と対人関係に応じた照明効果
越前谷菜穂	光の動きに伴う環境音に対する解釈の変化
木村明聖	明環境と暗環境におけるスポーツ時の心理と身体の動かし方
越石利輝	在宅勤務時の生活リズムと睡眠を整える照明環境
進藤昇也	光の動きに伴う環境音に対する解釈の変化
中西広登	画面と連動させた室内照明による臨場感の与えられ方
宮澤結菜	明環境と暗環境におけるスポーツ時の心理と身体の動かし方

<b>近藤研究室（環境系）</b>	
佐野優	ハイブリッド換気を導入したオフィス内の温熱環境に関するCFD解析
田中文乃	冬期条件での空調擾乱と人体擾乱によるエアカーテンのシーリング効率への影響
丹野真由子	CFD解析によるスリット状の欠損を有する異形断熱材の断熱性能評価
濱口駿	食品工場における天井面での結露と空調システムに関するCFD解析
松野倅大	夏期条件での空調擾乱と人体擾乱によるエアカーテンのシーリング効率への影響
宮沢みなみ	Khankari氏によるCOVID-19の感染確率分布解析手法を用いたケーススタディ
安永奏	食品工場における天井給気型置換・換気空調方式による空調負荷低減と快適性向上
矢吹香奈子	地域冷暖房の洞道における配管からの熱損失低減に関する研究 <p>―1970年代から使用されている洞道に関する検討―</p>
山田雄貴	地域冷暖房の洞道における配管からの熱損失低減に関する研究 <p>―2020年竣工の新しい洞道に関する検討―</p>

<b>大村研究室（構造系）</b>	
秋田悠揮	アンボンドPCaPC造壁の構造性能に関する実験的研究
沖村将大	コロナ禍における高齢者福祉施設の室内空気環境調査
尾野淳一	東京都の小学校教室における機械換気設備の有無による空気環境に関する研究
小崎海志	超音波伝播特性を用いた高力ボルトの導入軸力に関する評価
高田知美	FEM解析を用いたRC造住宅基礎の構造性能に関する研究
谷合素音	地震後における塀などの倒壊を考慮した避難路評価（横浜市旭区さちが丘周辺）
畠山樹希	微破壊試験によるドリルのトルク特性を用いたコンクリート強度の推定に関する基礎研究
菱川善就	SC杭の杭頭接合部における曲げ抵抗機構の解明に関する研究
矢野涼平	地震後における塀などの倒壊を考慮した避難路評価（横浜市浦島丘地区周辺）
山口智実	木造建築物のRC造のべた基礎における設計方法に関する基礎研究
山田星奈	二軸応力下におけるRC造壁の要素モデルに関する解析

<b>焦研究室（構造系）</b>	
高橋凌雅	鋼構造ブレース接合部に関する文献調査研究
北條雅貴	鋼構造ブレース接合部に関する文献調査研究
森翔	鋼構造建築物の耐火設計に関する文献調査研究
岡村郁哉	地震による損傷を受けた建築構造用SS400鋼材の高温時特性
石島峻登	FEM解析によるクリップを用いて補強された鋼管ブレースの補強効果の検討
市村英之	地震による損傷を受けた建築構造用SS401鋼材の高温時特性
名取郷	FEM解析によるクリップを用いて補強された鋼管ブレースの補強効果の検討
牧野雅明	建築構造用高強度鋼材SA440鋼材の高温時性能
前島淳平	地震による損傷を受けた建築構造用鋼材の高温時力学性能

<b>西村研究室（構造系）</b>	
見目譲	総重量の同じ建築構造を対象としたパッシブ減衰装置の検討
佐藤勇希	関東大地震の被害調査内容の概要 <p>―「震災予防調査会 第100号」を読んで―</p>
シイ・エイ	軽量構造物を対象とした免震構造用積層ゴム支承に必要な性能
須藤竜也	各種再生可能エネルギーの現状と将来展望について
田畑力大	歴史地震記録と南海地震の発生年代推定
長谷部昂彦	パッシブ型制振構造を適用した建築構造物の検討
本間幹基	免震構造用積層ゴム支承に必要な性能
鹿野紘市	10階建て高層建築物を対象とした高減衰制震構造の検討
山田修大	ヘテロダイナ原理を応用した制震構造に関する研究

<b>落合研究室（材工系）</b>	
桑田亮祐	プレカット加工技術の現状と加工効率向上のための提案
大原由己	枠組壁工法製材ビス留めラーメン接合部を利用した仮設木質構造物の制作～その1設計過程と構法の検討～
熊谷有里子	4階建て準耐火木造建築物のための高耐力筋かい耐力壁の開発研究
橋本和樹	枠組壁工法製材ビス留めラーメン接合部を利用した仮設木質構造物の制作　～その2仮設木造構造物の構造検証～
山口勘太	MDF 編み込んで使用したラチス耐力壁に関する実験的研究

<b>小見研究室（材工系）</b>	
北島ひなた	テレワークスペースの構成手法に関する調査研究
下山秀明	肆木の家の構法分析とBIMモデルによる表現
鈴木千織	2×4工法における大型パネル化の現状とその分析
田中一成	デジタルツインを用いたマンションの維持管理手法に関する研究
田村健太	2×4工法における大型パネル化の現状とその分析
早川拓実	コロナ禍におけるリモートワークの実態と家庭内におけるテレワークスペースの調査
前之園航大	中層共同住宅におけるエレベーター増設の実態に関する研究

<b>佐藤研究室（材工系）</b>	
追林洸太	全国のレディーミクストコンクリート工場の品質管理実態調査 その2 生コン工場の実測値からの実態調査
長谷川大士	普通骨材と再生骨材を混合使用した再生骨材コンクリートの耐凍害性に関する検討
伊東聖弥	高温履歴を受けるセメント硬化体の水和物挙動 その1 マイクロピツカース硬さ試験を用いたセメント硬化体の強度発現に関する研究
鶴飼翔太	全国のレディーミクストコンクリート工場の品質管理実態調査 その1 圧縮強度の割り増しと不良率について
川井一真	石炭ガス化スラグ細骨材を使用したコンクリートの構造体における強度発現特性
河田陽也	収縮低減剤の使用方法が再生骨材コンクリートの収縮特性に及ぼす影響
佐々木良	誘電測定によるコンクリート初期養生度評価に関する検討 <p>その1　コンクリート部材中のセメント水和率モニタリングのための基礎的検討</p>
田中寛汰	誘電測定によるコンクリート初期養生度評価に関する検討 <p>その2　コンクリートへの適用性</p>
和田迪大	高温履歴を受けるセメント硬化体の水和物挙動 その2 高温履歴を受けたセメント硬化体の水和物生成量

# 2021 年度 卒業設計

## 手塚研究室 (計画系)

- ① 浅倉有希 土湯〜今戸焼の文化継承と土のお風呂空間〜
- ② 内村友洋 大祖堂 曹洞宗における本堂建築の再考
- ③ 永木伶奈 身体が紡ぐ芸術と劇場空間
- ④ 近藤邦央 サブカルチャーのためのカオス建築
- ⑤ 武末杏奈 ソニーグループ株式会社の本社ビル設計 - 技術、環境、デザインが絡み合うエンジニアタワー -
- ⑥ 富樫弦人 月の旋律と共に〜楽曲「月の光」の空間的翻訳〜
- ⑦ 鳥居滯 新しいかたちの三省堂書店
- ⑧ 水上愛海 湖の教会
- ⑨ 宮崎拓実 MIYAZAKI PARK

## 福島研究室 (計画系)

- ⑩ 石田慶太 研究を体験 - 動線を発見の空間へ -
- ⑪ 伊藤夏輝 吊り×吊り曲線橋 - 小網代浦の川遊歩道整備計画 -
- ⑫ 梅田晃一郎 地形の巡礼 - 地形と場所性の抽出による建築の構築 -
- ⑬ 小原郁 「いのることとかくこと」  
- 清泉女学院の丘に新設するアトリエチャペル -
- ⑭ 片岡空良 時の橋梁 - 廃線橋と繋がるミュージアム -
- ⑮ 笹木聖 心地よい孤立
- ⑯ 藤後陸 教科書には載っていない!! 建築家人生ゲーム (対象年齢 6 才以上) ~ 双六による建築の繰り返し体験の思考実験 ~
- ⑰ 花森葵 市場と街の交差点
- ⑱ 水野誉也 心象建築 - 東山魁夷の絵画分析による設計手法を用いた記念館 -

## 堀場研究室 (計画系)

- ⑲ 五十川秀太 翠の氷山 - 海に浮くアイスアリーナと氷文化の振興 -
- ⑳ 下中拓哉 モノカベハウス  
- フリースクールほくちん木工所の再活用計画 -
- ㉑ 沈希壮 HEDI SLIMANE 表参道 - 新しい消費体験のブティック -
- ㉒ 新倉晃輔 "霊山" 高尾再興計画
- ㉓ 正木颯太 立体的ものづくりの場  
- 大田区における工場アパート計画 -
- ㉔ 両角敦弥 星と平生
- ㉕ 横田桃華 護岸再編 - 街と河川を繋ぐ護岸の提案 -
- ㉖ 吉田竜生 斜床の環 - 採石場跡のこれから -

## 山口研究室 (計画系)

- ㉗ 横田康太郎 officightseeng - 都市と遠郊外を繋ぐ新たなオフィスの形 -

# 2021 年度 修士設計

## 手塚研究室 (計画系)

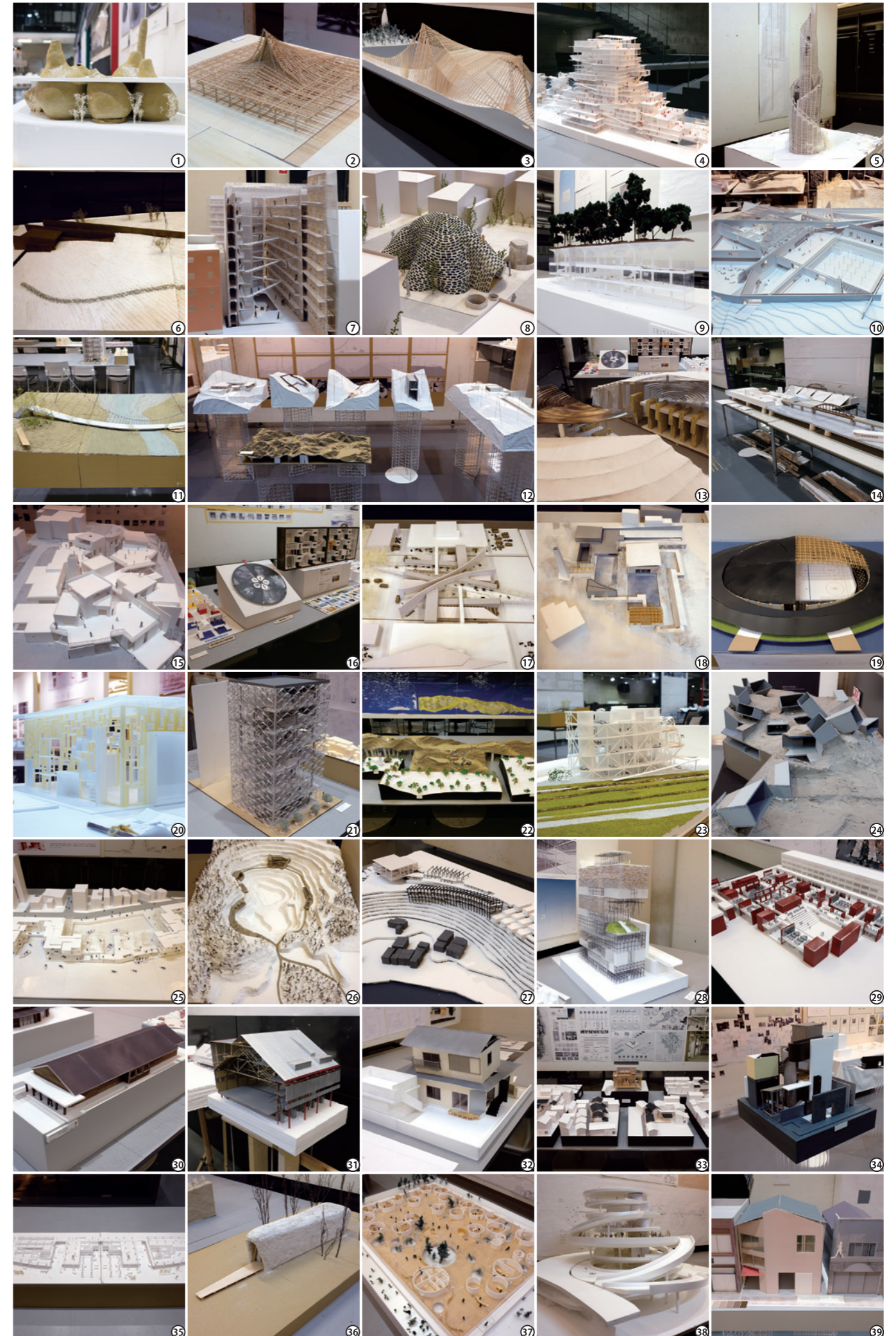
- ㉘ 西寛子 重香想 ~ 線香による香る建築と瞑想空間 ~
- ㉙ 根津慶之 らしきの情景〜癌患者の自分らしさを取り戻すホスピス〜
- ㉚ 森川麻里 酪園 ~ 都市型循環牛舎 ~

## 福島研究室 (計画系)

- ㉛ 岸晃輔 無名建築の再価値化 生残・解放可能性
- ㉜ 佐藤瞳 風景の雑然さとモラル  
- 雑然とした心地よさの収集とファサードの分析 -
- ㉝ 重野雄大 モノの囁き - 痕跡による空間の操作 -
- ㉞ 清水大介 集落構造から構築する集落保存の設計手法の研究
- ㉟ 寺島瑞季 日常の帰路体験における建築と都市の関係性

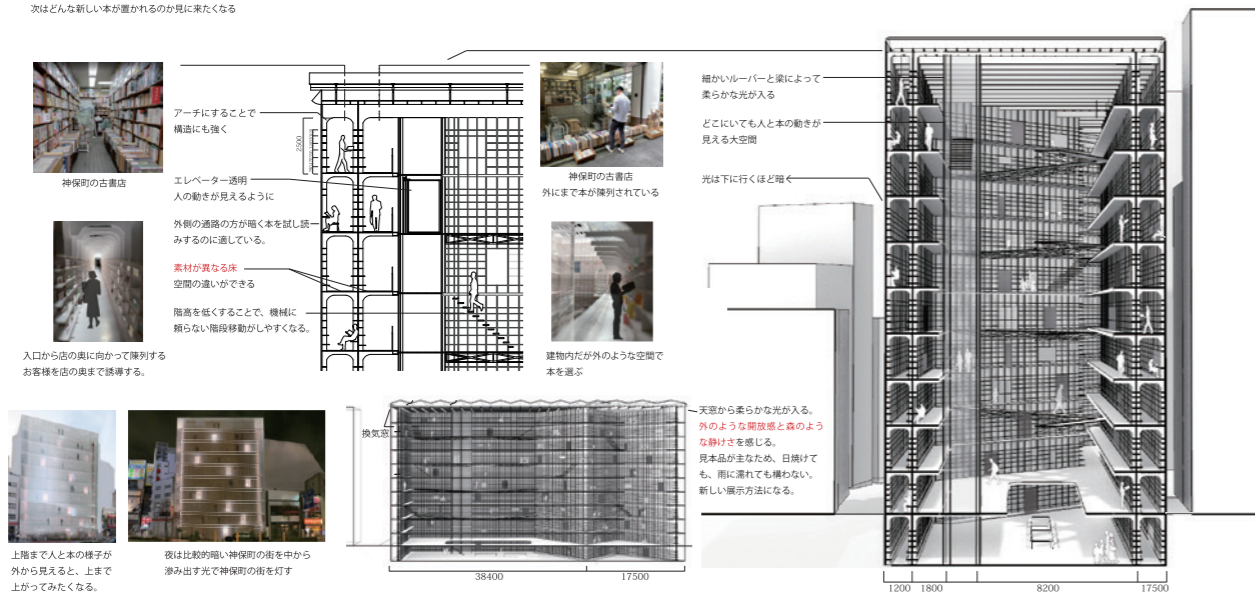
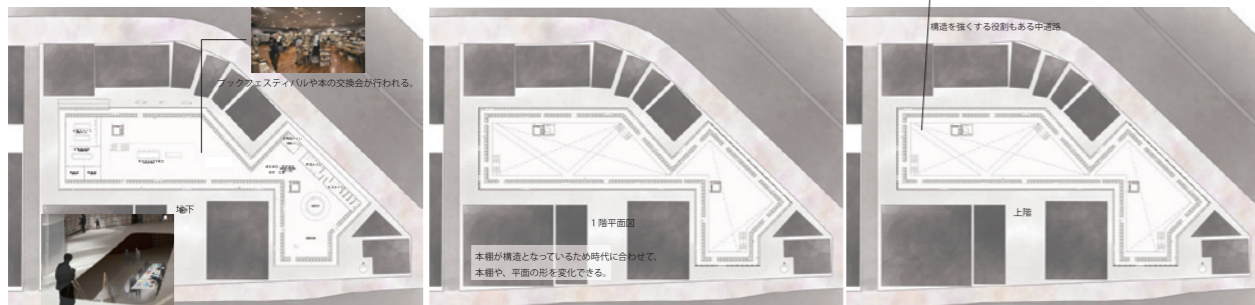
## 堀場研究室 (計画系)

- ㊱ 南場翔太 MaaS 導入による建築空間の変化と街路空間の活用方法について
- ㊲ 猪熊春陽子 都市に眠る - 現代の死生観からみる納骨空間のあり方 -
- ㊳ 岡田亘生 変化と伝統の継承 - 熊谷高校建て替え計画 -
- ㊴ 木村由佳 自由学園の歴史的建築物と教育体制に合わせた建築の変化



新しいかたちの三省堂書店 常に時代の声を聴き、新しい形態を生み出すのが三省堂。「書店」という枠にとらわれない新たな書店像を作る。

手塚研究室  
鳥居 滯



コロナ禍における東京都の小学校教室内の換気稼働状況に関する研究

岩下研究室  
中森 樹

1 はじめに  
新型コロナウイルス（以下 COVID-19）禍において、CO<sub>2</sub>濃度に着目し室内の空気環境を測定している施設は増加傾向にある。しかし COVID-19 以前より測定を行なっている施設は限られている。そこで COVID-19 以前から測定を行なっている機械換気設備ありの東京都の F 小学校（以下 F 校）において 2019 年度から 2021 年度に至るまでのデータをもとに分析を行い年度毎の変動に着目して解析を進めていくこととする。また、F 校で測定したデータは生徒との接触を避けるため数回の直接訪問を除いてオンラインによる収集を行なっている。F 校に訪問した日程については 2021 年 8 月 26 日と 2022 年 1 月 6 日の二回で、どちらの日程も生徒との接触を避け作業を行なっている。加えて、2019 年度から 2021 年度までのデータとは別途で 2022 年 1 月 6 日に F 校へ訪問した際に温度センサー・温湿度センサーの設置を行い、解析のデータとして研究を進めていくこととする。

2 実験概要  
本研究では機械換気設備がある F 校において各教室に設置した CO<sub>2</sub>濃度・温湿度計（RTR576-T&D 社）のデータと、気象庁の気象データを用いて教室環境の分析を行う。また、2022 年 1 月 6 日に F 校に訪問した際に対象教室に設置した温度センサー・温湿度センサーについても分析に加えることとする。

分析対象  
F 校：オープン型教室・機械換気設備あり（弱運転は 24H 稼働）  
2019 年度：1 年 1,2,3,4 組  
4 年 1,2,3 組  
2020 年度：1 年 1,2,3,4 組  
6 年 1,2,3 組  
2021 年度：1 年 1,2,3,4 組  
6 年 1,2,3 組

分析項目  
教室内 CO<sub>2</sub>濃度、室内温度、相対湿度、換気量、気象庁データ、2022 年 1 月 6 日以降の各データ

分析条件  
各データにおいて土日や祝日、長期休暇等のデータを省略した日を用いる加えて行事等で教室への滞在時間が少ない日についても省略する。主に使用するデータの時間帯は、生徒が教室内に滞在している時間帯は 9:00 から 13:59 までとする。また、生徒が学校にいない時間帯での解析については 0:00 から 23:59 のデータを用いる。

3 実験結果及び考察  
図 1 には生徒在室時における機械換気設備の稼働状況を示す。図からわかるように、1 年生教室・6 年生教室共に COVID-19 以前の 2019 年度では強運転稼働の割合が低い値を示していることが分かる。本来強運転稼働が理想でありながら実際には行っていないことから、2019 年度の教室内換気状況が悪くなったことが分かる。しかし、COVID-19 時の 2020・2021 年度では、1 年生教室・6 年生教室共に上昇しており、1 年生教室では 5 割程度、6 年生教室では 7 割から 8 割程度の値となっていることから、COVID-19 が教室内換気稼働状況に与える影響の大きさが読み取れる。  
次に、図 2 は冷暖房設備使用状況における 1 人当たりの換気量 30 m<sup>3</sup>/h・人不足率（%）、図 3 は COVID-19 時における冷暖房設備使用時の機械換気設備稼働状況を示す。図 2 で示すように、ビル管理法の考え方に基づく必要換気量（30 m<sup>3</sup>/h・人）を超えるということが 1 つの守るべき指標であると考えている。そこで着目すべき点は、不足率が 20% を上回っている点である。本来機械換気設備の強運転稼働を稼働させることで 1 人当たりの換気量 30 m<sup>3</sup>/h・人を上回ることが可能であるが、不足している箇所が多くあることが読み取れる。そこで、20% 以上の不足率が読み取れる箇所において図 3 より分析を行うと、いずれにおいても強運転稼働率が 50% を下回っていることが分かる。この結果から、機械換気設備の稼働状況の割合の変動

が教室内換気稼働状況の差に多大なる影響を与えるということが推察できる。  
最後に、図 4 では生徒不在時における機械換気設備の稼働状況について示している。生徒不在時においては、24H 稼働可能である弱運転の常時稼働が求められている。しかし、図から読み取れるように 2019 年度では弱運転稼働の割合が低く、1 年生教室・6 年生教室のどちらにおいても 2 割程度の値となっていることが分かる。この結果は、生徒在室時と同様に本来想定されている使用状況と大きく異なっていることが推測できる。しかし、COVID-19 時の 2020・2021 年度では大きく上昇していることが読み取れる。このように生徒不在時のみならず生徒在室時の機械換気設備の使用状況に大きな変動が生じたことで、教室内換気稼働状況の向上だけでなく、機械換気設備使用の有用性や重要性を示すことができたと思われる。

4 まとめ  
本研究の結果、COVID-19 以前から現在までにおいて機械換気設備の稼働状況が大きく変動し教室内換気稼働状況の向上に繋がったと推測する。しかし COVID-19 時においても教室内換気稼働状況が悪いと推測できる箇所がある。このような事態を防ぐための提案として、1 人当たりの換気量 30 m<sup>3</sup>/h・人を下回る CO<sub>2</sub>濃度となった際に機械換気設備の強運転稼働を稼働させることである。このような対応策をとることによって授業への影響を少なく教室内の換気稼働状況を保つことができるのではないかと考える。



図1 生徒在室時における機械換気設備の稼働状況

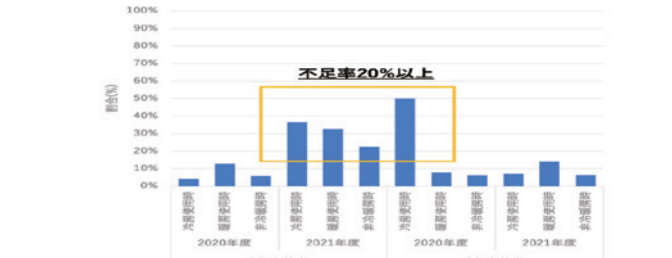


図2 冷暖房設備使用状況における1人当たりの換気量 30m<sup>3</sup>/h・人不足率（%）

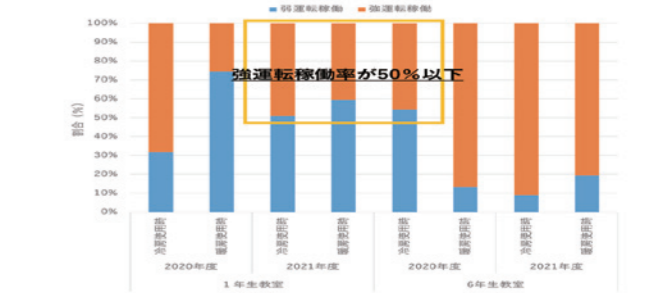


図3 COVID-19 における冷暖房設備使用時の機械換気設備稼働状況

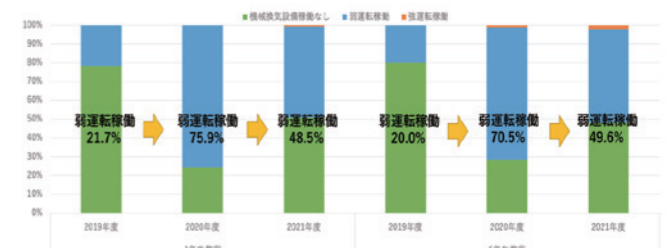


図4 生徒不在時における機械換気設備の稼働状況

# 如学会 2020 年度 収支決算及び 2021 年度 予算案

財務委員長 露木博視 (S55 卒)

## 【一般会計】

年度	2020年度決算			2021年度予算	
	2020年4月1日～2021年3月31日			2021年4月1日～2022年3月31日	
収入の部	科目	予算	実績	対予算	備考
	会員会費		1,445,000	1,445,000	1,400,000 100人×3千円(1年分)+110人×10千円(4年分)
	支援費		445,000	445,000	400,000 40人×10千円
	総会		0	0	リモート開催
	職域理事会		0	0	リモート開催
	進路ガイダンス		0	0	リモート開催
	100人展		0	0	930,000 出展料90点×7千円、協賛費850千円
	見学会		0	0	10,000 3回×20名×500円/人
	校友会支援費		663,000	663,000	660,000
	その他		33,960	33,960	0
	収入合計	0	2,586,960	2,586,960	3,400,000
支出の部	科目	予算	実績	対予算	備考
NEWS	制作費 春・秋		914,960	-914,960	920,000 3,000部×2回
	発送費 春・秋		538,629	-538,629	540,000 3,400部(2回分) 送料 封筒代含む
	NEWS計		1,453,589	-1,453,589	1,460,000
会員管理費	印刷関係		245,718	-245,718	250,000
	会員管理費計		245,718	-245,718	250,000
会議費	総会			0	80,000 リモート開催、講演料
	常任理事会			0	0 リモート開催
	職域理事会			0	0 リモート開催
	委員会		リモート開催	0	0 リモート開催
	会議費計		0	0	80,000
主催事業	100人展(大学展+巡回展)		209,856	-209,856	700,000 展示用品費、運送費他(2021年は浅草展のみ開催)
	キャリア開発授業支援		0	0	75,000 懇談会費
	進路ガイダンス		リモート開催	0	0 リモート開催
	見学会		10,000	-10,000	10,000 CPD登録費(2回)
	ワークショップ(青年委員会)		0	0	300,000 トークイベントの開催
	主催行事予備費		0	0	50,000
	主催事業計		219,856	-219,856	1,135,000
学生関係	助成金		0	0	90,000 3研究会(1・2年生学園祭授業@20千円)、赤レンガ卒業設計展30千円
	学位授与式・蔵田賞		127,011	-127,011	130,000 メダル2個(蔵田賞、如学会賞)作成費(11千円)、如学会資料作成
	その他		0	0	40,000 予備費
	学生関係計		127,011	-127,011	260,000
管理費	慶弔費		20,000	-20,000	80,000 総合資格、日建学院、他
	通信費		48,820	-48,820	50,000 サーバ・ドメイン代
	事務用品		0	0	10,000 文房具
	支払手数料		33,594	-33,594	35,000 会費振込受取人払分
	雑費		0	0	5,000 交通費
	予備費		0	0	35,000
	管理費計		102,414	-102,414	215,000
	支出合計	0	2,148,588	-2,148,588	3,400,000

## 【収支】

科目	予算	実績	対予算	予算
収入合計	0	2,586,960	2,586,960	3,400,000
支出合計	0	2,148,588	-2,148,588	3,400,000
収入合計-支出合計	0	438,372	-438,372	0

前年度繰越額	7,754,637
一般会計収支	438,372
次年度繰越額	8,193,009

# 如学会 2022 年度 主な行事

## Event

如学会の今年度の主な行事は下記の通りです。

多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

以下は予定です。コロナ禍でもあり、今後変更の可能性があります。予定日が近づきましたら、ご確認ください。

### 定期総会・講演会・懇親会

2022.06.25 [土] 15:30-20:00 (予定)

15:30	●定期総会 ●渋谷エクセルホテル東急
16:30	●休憩
16:45	●講演会 講演者：未定
17:45	●休憩
18:00	●懇親会
20:00	

※詳細はメールマガジンで追ってお知らせします。HPもご覧ください。

### 「建築 100 人展 2022」

2022.11.05 [土] -11.06 [日] (予定)

大学展 10:00-18:00 入場無料

会場：建築学科 1 階製図室

■卒業生による「建築 100 人展」及び、在校生の 3 研究会による研究発表、及び 2 年生課題発表などがあります。

2022.12.03 [土] -12.11 [日] (予定)

浅草展 11:00-17:00 入場無料

会場：隅田公園リバーサイドギャラリー

12.03[土]17:00-19:00 オープニングイベント

### 赤れんが卒業設計展 2022

2022.3.24 [木] -28 [月] 10:30-18:30

●会場：横浜赤レンガ倉庫 2F スペース ※ 28 日は、14:30-18:30

●講評審査会

・日時：2022.3.28(月)14:15-19:00・会場：横浜赤レンガ倉庫 3F ホール(一般公開)

・審査員：手塚貴晴、大野博史、クマタイチ、津川恵理、中川エリカ、南後由和、原田真宏、藤村龍至

●参加大学

大阪工業大学、共立女子大学、工学院大学、芝浦工業大学、昭和女子大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、東京都立大学、東京都立大学、東京理科大学、日本大学、日本工業大学、日本女子大学、武蔵野美術大学、早稲田大学

●問い合わせ

赤れんが卒業設計展 2022 代表 中島弘樹

s.f.akarengadiploma@gmail.com

### 進路ガイダンス 2022

場所・東京都市大学 世田谷キャンパス

2022.06.15 [水] 13:00-19:00 (予定)

●第 1 部 事業別仕事紹介 13:00-17:00 (予定)  
会場：新 6 号館「61B 教室」(予定)

●第 2 部 懇親会 17:00-19:00 (予定) 参加無料  
会場：1 号館 4 階「ラウンジ・オーク」(予定)

2022.10.26 [水] 13:00-19:00 (予定)

●第 1 部 企業別仕事紹介 13:00-17:00 (予定)  
会場：建築学科棟 1 階「グランドギャラリー」

●第 2 部 懇親会 17:00-19:00 (予定) 参加無料  
会場：1 号館 4 階「ラウンジ・オーク」(予定)

### 会費・支援費納入のお願い

是非とも旧友、先輩、後輩にご連絡いただき、会費納入の促進にご協力いただけるようにお願いします。そして、積極的に如学会活動にご参加下さい。仕事にキャリアにも多くのメリットがあります。会費・支援費のご納入いただいた方々は、如学会 NEWS に添付の納入者リストにご芳名を掲載させていただいております。

会費：3,000 円(1 年分) / 10,000 円(4 年分・割引料金)  
支援費：5,000 円/一口

納入頂ける方は必ず「内訳」をご記入の上、振込頂くようお願い致します。如学会 NEWS に同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No.00160-0-174206 如学会

郵便振込以外の方法を紹介(詳しくは如学会HP)

### 如学会ホームページのご案内



如学会 Facebook